昭和四年十二月[illegible]日第三種郵便物認可
昭和二年一月[illegible]日創刊
昭和五年九月一日發行

婦選

第四[illegible]第八號

九月号

婦選獲得同盟

一[illegible]拾五

産業組織論

北澤新次郎著

本書の一讀は現代產業組織の禍根を解決す

◆近代資本主義社會の赤裸々なる實體の適確なる實證的解說。

◆觀念遊戲的イデイオロギーを排濟して、事實認識に基づく、新イデイオロギー樹立の主張。

◆現代社會生活の尖端的諸問題——機械と人間、失業、賃銀制度、勞働銀行、產業合理化——の嚴正批判。

果然沈默を破つて著者十有餘年の涙ぐましき研究の結晶たる現代產業組織の解剖的考察は今や天下あらゆる好學の士に開放せられた！單り本邦に於ける新興經濟科學の最高權威たるに止まらず廣く國際的の名著として政治家、教育家、思想家、實業家、勞働者學生諸君の淸讀を薦む。

最新刊

菊版三百二十頁背皮・頗美本
定價參圓貳拾錢（送料十八錢）

發行所 省文社
東京市神田區通神保町二番地（電話神田一二二一番）

蘇峰學人序

吉屋信子著

異國點景

羽二重特製美本
四六判函入　定價壹圓八拾錢　送料十錢

目次

‖旅立つこゝろ‖滿洲を渡りて‖シベリアを行く‖モスコーから伯林へ‖伊太利の印象片々‖巴里‖倫敦遠足記‖ミスあめりかの横顔‖あちらで見た映畫‖歸つてから◇小説‖巴里の鹽鮭‖男のない風景◇創作‖凡下のこゝろ

蘇峰學人は、本書の卷頭に序して、『吉屋女史の文は、天眞爛漫といふよりも、寧ろ露骨、無遠慮である。然もその露骨、無遠慮なる所に、一種人を魅する力がある、情趣がある。』と云うてゐる。而してその叙事や叙景や叙情や、女史一流の筆致と觀察とを以て、清新且つ雄麗に、其の國々、其の所々の特色を露呈し來つて、有髯男兒をして、後に瞠若たらしむるものがある。しかもその大膽皮肉なる叙述の裡にも、さすがに女性ならでは能はぬ所の優雅なる情趣が横溢してゐる。單なる歐米の觀風記でなくして、そこに女史の力强き個性が躍動してゐるのを見免し難い。別けても婦選獲得同盟に共鳴せらるゝ、各位の御愛讀を願ひます。



伯林チャーガーデンの池　著者

蘇峰學人著（最新刊）

時代と女性

目次

昭和時代帝國の女性に關する考察‖現今我國婦人の地位‖婦人の職業‖婦人の自覺心‖人正婦人解放論の兩面‖婦人參政權問題‖此頃の婦人問題‖婦女禁賣の説‖日本婦人の賣淫に就て‖治家と女性‖グラットストーン夫人‖意志の强き婦人

蘇峰學人肖像、筆蹟二葉
四六判布裝特製美本函入
定價壹圓五拾錢　送料八錢

圖書目錄贈呈

東京市京橋區銀座西八丁目
振替東京一三一〇〇
電話銀座二三〇〇番

發行所　民友社

FUSEN・FUSEN

婦選 第四巻第八號 九月號目次



こほろぎをきく（卷頭言）

肩させ、裾させ、つゞれさせ、

こほろぎが鳴いてゐる。細々と厨の隅で。いくとせの秋を、この聲に、わたしたちの母も祖母も、そのまた母おやたちも、あはたゞしい心持で、冬の支度にいそしませられたのであらう。

いまも昔もこほろぎの聲はかはらない。だが、今、私たちは、この世界的だとさへいふ不景氣風を、身にしみ〲と味ひ乍ら、はか〲しくは昔のわれ〲の母たちのやうには、膝の上の縫物の針を運びえないをどうしやう。

昔も、母おやたちの荷は輕くはなかつた。その重さにしば〲溜息は洩れた。膝の上の縫物の手もたゆたふた。だが、あの細い虫の聲にいとしい昔の女たちは、すなほに又、迫り來る冬を想ひつゝ縫物を取り上げたのだ。

だが、今の女の心は、この肩の荷がどうすれば輕くなるのかを、さしても〲追ひつかないこの不況時代を、たゞ〲稼ぐ事のみが解決してくれるのかどうかを、どうすれば、明るい、男も女も年よりも子供も、一樣にたのしい世の中が來るのかについて、考へ込む。はか〲しくは、昔の女のやうに針の歩みのはかどらないわけである。

いまの女は、怠けものだ、昔の女はもつと〲働いたものだ――といふ批難は當らない。

考へることが、疑ふ事が、まづ第一歩なのだ。この清澄な秋の氣の中に在て、わたしたちは折あらばまづ考へをふかめやうではないか。

世の中の何が不合理か、なぜ女は男より割が悪いか、どうしたら男女協力の平和な社會が來るか、ぢつと、耳をすましてあの虫の音をきくやうに、まづしづかに心の耳をすまして聽き入らうではないか。

政府の婦人公民權案と新聞の論說

市川房枝

政府原案の發表

一、八月九日の都下新聞紙は、一齊に、內務省が來る第五十九議會に提案する婦人公民權案の內容を決定したる旨を報じた

其の內容は、私達が豫期した如く、市町村會議員の選擧、被選擧權及市町村の名譽職に選擧される權利と義務、即市町村に於ける公民權を婦人にも付與せんとするものである。

それ等の權利は、全く男子と同樣の年齡、資格で其間に何等の差異は設けられてゐない。從つて市町村に於ける完全なる公民權といふことは出來るが、然し公民權が當然含むべき道府縣會議員の選擧、被選擧權を除いてゐるので、矢張制限公民權案である。

私達は、この記事をみた後、直に內相及地方局長を訪問して、その事實を確め、更に政府案の進捗の程度、制限案とした理由等について聞く所があつた。

然して右發表は八月八日午後內相自ら新聞記者に發表したものであること、內容は新聞紙の通りであること、その制限の理由は、內相は漸進主義であるが、局長は更に府縣は婦人と關係がうすいことをあげてゐられることを知つた。

尙內容に於では、從來住居が二年と規定されてゐるのを、男子と共に一年にすることゝ、妻が名譽職に選擧されて就任する場合、夫の承諾を要するか否かが目下研究中であるとの事であつた。

此會見によつて私共は、最早閣議にはかる迄もなく、政府は、右の制限公民權案を來議會に提案することに確定したことを察する事が出來た。尤も民政黨內閣に於ても宣傳だけで提案しなかつた事もあるし、政府自ら提案しながら握りつぶした例が少くないので、果して提案するかどうか兩院を通過

せしめるかどうかは最後迄安心は出來ない。

確定した政府の此原案、並にこれに對する政府の態度については前號に述べた以外に尙多くのいふべきことがあるが、本號に於ては、右の發表に對する輿論の反響――新聞の論説についての感想を書いてみることにする。

各新聞紙の論説

右の政府原案はニュースとしては前に述べた如く八月九日及十日の各新聞紙で可成大きく取扱はれたが、之を社説欄で取扱つたものは、別項に轉載した報知、都、讀賣、大每、東日、萬朝の六紙に過ぎなかつた。然もその六紙の中大每、東日を除いては其內容の點でも不滿足を感ぜざるを得なかつた

都と讀賣とは、大體同じ漸進主義の立場をとり政府の制限公民權案に贊意を表してゐる。人の事として扱つてゐる態度が少からずはがゆい。

萬朝は稍不眞面目に、ひやかし半分に婦選運動者をつかまへて公民權行使の問題並に運動の不振について警告してゐる

然し政府の原案については、特別議會に提案されたものが制限で、此度のが完全だ等と、まるで反對な間違を書いてゐるだけで、萬朝紙としての主張乃至は論評は何にも述べてゐない。

大每と東日のとは同樣なものが掲載されてゐたが、これは市町村だけに限定せず道府縣にも及ぼせといふ趣旨で、私共の完全公民權の要求を裏書きしたものである。

兩紙の道府縣をも含むべしとの主張の理由は「市町村は下級、府縣は、上級地方團體と區別しての漸進主義は官僚的偏見である、大都市は府縣よりも複雜さを持つてゐる」のと完全公民權賦與案は與黨野黨の大多數によつて提案され前議會に於て衆議院を通過してゐるのに異を立てる事は正しくないとの二つがあげられてゐる。

二つとも私達の主張する所ではあるが、慾をいへば、今少し力强く、婦人の立場からの主張が加へてほしかつた。

報知新聞の迷論（一）

報知の掲げたものは前の諸紙と異り、市町村の公民權だけに對してさへ尙早論を稱へてゐる。否その論旨を徹底させれば婦人公民權反對論にもなる如きものであつた。

報知紙は、最初に、何故選擧革正審議會にはかり、其の決議によつて提案するの手續きを執らないかとなぢり、若し與ふるならば制限付與は論理の徹底を缺くと攻擊して、更に婦

人に公民權を與ふるも婦人には意志の獨立がないから其の結果が疑問であるとて、米國の婦選が何等の効果なきことを引例し、最後に女子の權利の伸長のためには、むしろ先づ女子を女學校の校長若しくは教頭に任ずべきで、公民權の如きは其の付與を急ぐべき問題ではないと結んでゐる。

選擧革正審議會との關係は、實は、內相自身第五十八議會の貴族院委員會に於て革正審議會に附議した上、適當に善處すると答へてゐる。選擧革正審議會としては選擧法の改正の中に婦選問題が一つの項目としてあげられてゐるが、婦人公民權問題は含まれてはゐない。從つて同問題は審議會の取扱ふ範圍外と解釋してゐる者が多い。審議會に附議するといつた內相の意味も、婦選問題を審議する場合、婦人公民權は直に實施するも差支ないとの申合はせをつくらせる程度の手續をとる積りであつたらしい。然してこの程度の手續きは、政府原案の發表前に、內相の豫期通り運んだと洩れ聞いてゐる

以上は婦人公民權案と選擧革正審議會についての私の知つてゐる限りの情報であるが、私自身は、審議會を全然無視して差支ないと考へてゐる。

婦人公民權の問題は今更調査研究の必要はない。特別議會に於て殆ど萬場一致で通過してゐる以上、最早他の機關に諮詢するの必要を認めない。只斷の一事あるだけだと思はれる

或はよし政府に多少の手續上の誤りがあつたとしても、それが輿論にしたがつた政策である以上、私共は歡迎して結構だと信じてゐる。

制限案が論理の徹底をかくものであることは私共も同感である。但し現在は論理の問題でなく、如何にして實現せしむるかにある。從つて私共は公民權のみならず結社權參政權をも同時に付與さるべきことを主張してゐるが、實現の可能性の上から考慮して、これを地方政治中央政治と分割することを已むを得ず認めてゐる。然しそれ以上の分割制限は絕對に反對である。

報知新聞の迷論（二）

女子には生活の獨立性がない、從つて選擧意志の獨立がないから、選擧權の付與を拒否してもいゝとか、普通選擧の制定に當つても獨立の生計が長く問題になつた事には當然性があるといふのは、一體どういふ意味なのか、了解に苦しむ程である。

若しこの立場をとれば普通選擧を否定し結局男女を通じての獨立の生計を條件としての制限選擧を承認することになる

のではあるまいか。尙女子には生活の獨立性がないといふことを原則として承認すれば婦選反對といふことになるのではあるまいか。

婦人に公民權を實施した結果については、私共にも多少の危惧がある。然しその危惧――棄權、買收其他等――は行使することによつてのみ漸次訓練され、敎育されるものと考へるが故に、私共は一日も早く公民權だけでなく婦選の實施を要求してゐるのである。

米國の婦人參政權實施の結果が男子の票數を二倍にしたのみであるとの結論は如何なる材料によつて斷定されたものか知らないが、それは事實を强ふるものである。婦選實施の結果については付與前の贊成論者と反對論者との間に未だにこれが功罪についての議論がたえない。反對論者はつとめてこれを無益有害なものとみんとしてゐる實例を私共は知つてゐる。日本に於ても公民權實施後、この種の議論を米國以上に聞かされ或はそれを口實として婦選獲得の時期を遲延させる事になりはしないかとの憂慮を今から持つてゐる次第である

女子の學校長を增すことは勿論贊成で、今日迄私共は絕えずそれを主張して來た。然しこれはいゝが公民權は急ぐ必要がないといふのは不徹底ではあるまいか。

女子校長に適當な婦人であれば、公民權行使の資格は充分である筈だし、「女子の敎育については女子においてのみ理解し得る」のであれば男女によつて組織されてゐる自治體及國の政治にも女子においてのみ理解し得る領分があるのを承認出來る筈である。それに女子の女學校長の實現が仲々六ケ敷いのは、婦人が政治に特に敎育行政に關與してゐない結果であることを其の實例によつてあまりにもよく知らされてゐる私達としては、論者の主張を實現せしむる爲めには先づ婦人公民權の實現を提倡とするのである。

報知紙のこの社說は恰度特別議會に於ける齋藤內務政務次官のやうに、論者自身內に反對論を持ちながら明瞭にこれを公言し得ないで、强いて詭論を弄んでゐるかの如き感がある

私達はこうした論說を報知紙上に發見したことを意外に感ずるものである。

新聞紙と婦選運動

假令市町村だけにしろ千二百餘萬人の婦人が公民としての權利を獲得することは、我國開闢以來の事で婦人自身からいつても、市町村からいつても實に特筆大書さるべきことである。從つてその公民權を政府が婦人に與ふることに確定した

といふ事實は大なる事實で輿論を代表しこれを指導する新聞紙としては當然一言なくてはならない筈であり、大に制限案に反對して然るべきやうに思はれる。

然るにこれを扱つた新聞紙が十餘の中僅かに半數にも足らず、然もその少數の論説の中に、前に掲げた如きものを見出すのはどうした譯であらうか。

婦人公民權は最早當然の事で今更取り上げて論ずるには及ばないといふのもあつたかも知れない。或はロンドン條約、失業問題、豫算編成難等々と問題が次々に起つて來るので、婦人公民權問題に紙面をさく餘裕がなかつたのかも知れない

然しこれ等はむしろ好意的の解釋で事實は結局婦人の問題であるが故に、注意をひかなかつた、熱が起らなかつた、たま〱起つてもそれは極めて簡單に或はひやかし半分に片附けられたといふのだ、正しい見方ではあるまいか。

これは單に論説だけでなくニユースの上でも同樣である。

私は男子の普通選擧の獲得が、如何に當時の新聞紙の努力におふところが多かつたかを思ひ出す毎に、これを現在の婦選運動と新聞紙との關係に比較し、その間に甚だしいギヤツプのあることが遺憾に思へて仕方がない。若し各新聞紙があれだけの熱を婦選の上に注いでくれたら、婦人公民權の如きはとつくに解決されてゐたに違ひない。

然しさうはいふものゝ私達は決して他に依賴して獲得して貰はうといつた卑怯な考へは持たない、私達としては最後迄努力し戰ふだけの覺悟を持つてゐる。たゞ婦選運動が他のどの婦人運動よりも非常に困難であるだけに、輿論の指導機關である新聞紙の後援を望む次第なのである。

新聞と公民權政府案

——最近の論說——

女子公民權

道府縣にも及ぼせ

わが國の女子參政權乃至女子公民權の問題もすでに久しい。有志間の運動であつた間はしばらく問はぬとしても、護憲三派聯合の加藤內閣時代、かの普選案の實現に際して、政友本黨は女子の世帶主に對して選擧權を與へることを主張した。その後昭和三年度の第五十六議會に先だつて、行政審議會幹事會は、女子に公民權を與へることを適當とする旨決議し、各政黨も競爭の形で同樣の案を右議會に提出したが、政友會內閣は日本の女子の大部分はこれを要求してゐないと稱して與黨を制肘したゝめ、遂に成立たなかつた。本年の特別議會に當つて、再度民政黨及び政友會の人々より提案があつて大多數をもつて衆議院を通過したのであつた。貴族院は故意にこれを握潰してしまつたけれども、その運動の長さや一般情勢から見て女子公民權の如きはもはや實行の時機に達してゐるといつてよい。

特別議會當時受動的位置にあつた現內閣は、その後調査を進めつつあつたが、遂にその案を得ていよ／＼來議會に提出することゝなつたといふのは喜ぶべきことである。しかしながら傳ふるところの案によれば、公民權とは稱するものゝ、單に市町村に對するものであつて、道府縣に對するものはこれを除外してゐる。これは安達內相が議會において「婦人に參政權を與へることは原則として贊成であるしかしそのためには先づ市町村制の公民權を與へ、それから漸次上級團體の制度改正に及ぼすといふ漸進主義をとりたいと思ふ」といつた意見を固執してゐるものであらう。しかし市町村の公民權を與へてこれを道府縣に及ぼさぬのは解し難い。行政的の下級上級必ずしも仕事の難易を決定する標準とはならぬ。いはゆる大都市の如き、府縣の及ばぬ大世帶と複雜な仕事とを持つてゐるではないか。これを內容的にも下級視する如きは官僚的偏見に過ぎない。かつまた道府縣市町村一律の公民權賦與案は既に衆議院を通過してゐるのである。問題にもよるが、與黨と野黨との大多數が主張贊成したかくの如きものに對して、異を立てることは正しい行方であらうか。かやうな政府案に對して、野黨がもし修正意見を出すとすれば、一たびこれを主張しこれに贊成した與黨はいかなる態度をとるか。もし政府が威をもつて與黨の意見を枉屈せしめ、與黨が唯々としてこれに從ふことを豫想するならば、そのこと自體がその參政資格觀を疑はせるに足る。(大每八月十三日)

婦人に公民權

政府が婦人に公民權を與ふるの法案を作り、之を來議會に提出せんとするは恐らくは一般民衆の歡迎する所であらう。或は一足飛びに婦人に對して男子同樣の參政權を與ふべしとする論者もあり、之等の人々から見れば只市町村政に參與せしむるだけでは物足らず、政府案の如きは姑息不徹底と評すべきも、而も漸進的に先づ之を與へ、多少實驗訓練の時間を置きて更に

第二次の者を與へんといふは至極穩健なる案である、婦人參政權論に反感を持つ者も亦この點までは讓步して可なりと思ふ、姑息なる所が即ち此案の長所である。（都八月十一日）

婦人と公民權

婦人公民權案を來議會に提出すべく、內務省に於て立案が略ぼ成つたといふことである、被壓迫階級の權利の伸張が、たとひその一部分に過ぎないとしても、實現を見るといふことは喜ぶべきことである。尙早論者は常にありし如き意見を以てこれに莅むだらうが、最早結論の出來上つてゐる問題については、根本精神に於て誤りのない限り贊意を表すべきが當然である、內務省案は市町村公民權に極限されたるものであつて、極めて用心深い漸進案である、婦人側から見れば微溫不徹底を極めたものであらうが、多年の懸案を解決に導びく第一歩であり、婦人進出の機を與へんとする時代相應のものである、公民權を獲得した曉の婦人が、實際に於て如何ほどの成果を收め得るやは疑問であるが、過去に於て不當に壓迫されたものゝ一方の窓を明け放ちて、解放の實を示さんとする意圖には何人も異論はあるまい、先づ與へよ、然る後自然の辨別識差を待つが順當である。（讀賣八月十二日）

女子公民權と獨立性の疑問

何故革正委員會を無視したるや

內務省では女子の公民權を認むる方針を決し、市町村制の改正案を來議會に提出するとの事であるが、我等はこの問題に對する內務省殊に安達內相の態度について、少なからず疑ひを抱かざるを得ない。第一に政府は既に選擧の革正に關して委員會を設け、選擧法の改正を中心として審議して居るのに、たとへ市町村自治の範圍內なりとはいへ選擧資格と被選資格とに全然新たに擴張を行はんとするについて、何故にこの委員會の意見を徴せず、內務省單獨の意思を以てその方針を決定したるや。第二に選擧革正を目的とする選擧法の改正には內務省が全く白紙を以つてこれに臨み、何等の意見も方針も示さゞるに、女子の公民權に限りて單獨意思を以て決定し、調査會の存在を無視しその意見を問はざるは何のためか。この調査會が存在せざれば止む。いやしくも選擧制度に調査機關が存在する以上、しかも選擧の革正を目的として調査を進めてゐる以上、たとへ市町村自治の範圍なりとはいへ、その意見を問うて方針を定むるのが當然にして且必要なる態度であらねばならぬ。

女子公民權の問題は、單なる選擧權の擴張でなくして、全然新たなる權利の付與であるが、この問題について我等の諒解に苦しむ處は市町村自治の範圍なら選擧權を與へてもよいが、それ以上の選擧には與へられぬといふ論據である。安達內相はそれを漸進主義と稱して居るが、女子の選擧能力または被選能力を認むる以上、限定付與は論理の徹底を缺いて居るが恐らく如何なる付與論者といへども、それに正確なる論理的根據を擧示することは困難であらう。しかもその中途半端であり低徊氣分の滿々たる處にこの問題の眞面目が躍動して居るのであつて、

それ等付與論者に正確なる論據と信念の存在しない證據である

更に我等の疑ふ處は、女子に公民權を與へた後の効果である。そして疑問の基づく處は極めて簡單であつて、女子には選擧權行使に必要なる、從つて自治の議員としての職務行使に必要なる、生活上の獨立性がないからである。殊に選擧權行使において最も必要なのは意思の獨立であり意思の獨立があつて、初めて選擧の自由が存在するのである。そして選擧意思の獨立は生活の獨立が中心的要件である事も、全く議論の餘地のない問題である。この故に普通選擧の制定に當つても、獨立の生計が長く問題となつたのであるが、社會生活の一般的狀態において、特定條件を除外すれば、男子には生活の獨立性が認められるのである。しかるにその一般的なる社會生活の狀態において、女子に生活の獨立性ありといふ事は、恐らく何人も主張し得ぬであらう。無論僅少の例外的事實の存在は、我等もこれを承認するものであるが、それは例外的事實であつて一般的狀態ではないのである。從つて生活の獨立性なき女子に、選擧權の付與を拒否する事は、それに正確なる議論的根據があると解するものである、

まして生活の獨立性なき從つて、選擧意思の獨立なかるべき女子に選擧權を付與する事によりて、選擧の革正を信ずるものあれば、それは非常なる錯誤であり妄信であるといはなければならぬ。女子參政權を無制限に承認して居るアメリカにおいては、個人主義であると共に女尊主義であり、生活の獨立性が存在し得べき、從つて選擧意思の獨立が確認され得べき、國情であり、社會狀態でありながら女子參政權付與の結果は、單に男子選擧權の數を二倍にしたるのみと結論され、効果的に確認し得べき何ものもないといはれて居る。アメリカにおいて既にしかり、いはんや日本においてをやといふ事は、この場合決して輕卒なる論斷でないと思ふ。我が衆議院は前回既にその法案を自由問題として通過して居るが果してそれを院議として固執する信念ありや、選擧革案委員はそれを革正目的に顧みて、これを默認する勇氣ありや、抑も知らず進步主義を氣取る安逹內相は、果して自治の範圍內と限定しても、その結果に正確なる期待と自信ありや、そのすべては我等に疑なきを得ないのである

若し女子の權利の爲の伸暢を考へるなら、他の方面に考へしむべき適切な問題がある筈である。彼の學位または學力條件の地位も、女子の知識進步の現狀において、當然考へざるべからざる問題であるが、殊に女學校の校長または教頭を女子に分つ問題の如きは、その最も適切なるものでなければならぬ。女子の教育については女子においてのみ理解し得べき、生理的または精神的の何ものかがあるに拘はらず、女學校の校長または教頭をまで男子に獨占し、女子の進出を拒否して居る如きこそ、女權のために考へしむべき問題であつて、公民權の問題の如きまだ〳〵その付與を急ぐべき問題ではないと思ふが如何。（報知八月十日）

婦人公民權と參政運動

妾達に參政權を與へよとは婦

人の久しき間の叫びである。雌々しきものよ汝は婦選獲得運動の婦人達なりと、先づ敬意を表しておくことにして、さて前議會に於て衆議院提出案に同院を通過した婦人に公民權を與へる法律、それは貴族院を通過するに至らなかつたが今度は政府の法律案として來議會に提出する運びとなつて法律案其他一切のお膳立てがそろつてゐる――前議會に提出されたものは婦人に選擧權のみを與へる法律案であつたが、今度內務省の立案せるものは府縣を除き市町村の公民權一切即ち選擧權被選擧權は勿論市町村長以下の名譽職ともなり得るので―安達內相も奥さんからネーアナタをきめつけられたと見えて餘程熱が加はつてゐるから婦人公民權を完全に獲得することは來議會において確實性がある。

今更謂ふまでもなく、婦人に市町村の公民權を與へることは參政權を與へる一階梯でありその試練であることを忘れてはならぬ。折角婦人が公民權を獲得しても、この試練この政治試練に下手をやつて落第でもしやうものなら、それこそ大變だ。婦選獲得運動に携はつて來た婦人達が今日までの涙情もビールの泡と消える運命となるのである。と云へば妾達を見縊つては困る妾達にもそれ位の覺悟はもつてゐますよ、餘り出しや張つて貰ふまいとか、何とか、相當の文句もある筈だとは重々承知してゐるが、そこが我等男子側からの異性に對する思ひやりだ、惡くとられては困る。

婦選獲得運動の婦人達よ、君等は社會的にも政治的にも立派な素養と自覺をもつてゐることは我等も十二分に承認してゐるが日本の一般の婦人が、君達ほどの素養と自覺をもつてゐるであらうか。それからまた日本の永年に亘る家族制度に根張れる因習先づこの點が右に述べた所謂政治試驗に合格するか否かの分水點である。而して就中最も氣遣はれるのは棄權者が多く出はすまいかと云ふ點である。更に心配になるのは一定の年齡に達した婦人であれば娼妓にも藝妓にも女工にも齊しく公民權が與へられて――彼等も婦人の有する立派な職業である以上はそれは當然であるから、これ等の人達が公民權も行使する上に於て、抱へ主とか工場主がどんな態度に出るであらうか。

婦選獲得のため永年心血を注ぎ來れる婦人達が、その運動の成果を收め得ると否とは一つに係つて公民權に對する所謂政治試驗の及落に存することを呉れぐ〜も忘れてはならぬ。だが近頃婦選獲得運動に熱がないやうに見える。これは我等の僻目であるのか或はまた不景氣に壓倒されたのであるのか、婦人公民權は近く完全に獲得さるるのである。この期を逸せず全國的に熱のある運動を開始して婦人參政權獲得の地盤を築くことを我等は切に希望してやまぬのである。（萬朝八月十六日）



パターナリズムを排す

小泉郁子

◇

婦人公民權が來議會に愈々政府案として提出される事になり、近く安達内相から正式に閣議の承認を求むる筈になつて居るといふ消息は都下の新聞紙が一齊に報導した所であり、外字新聞迄が前祝の祝辭を載せて運動の勝利を期待して居る。然し愈々出來あがつた所謂政府案なるものはかねて婦選運動者がそれと怖れ危み、逸早くこれが牽制に力めた所謂制限案なるものである事は疑ふ餘地の無いものゝ如くで、今更の如く、婦選の闘士をして不覺の涙を呑ましめて居る。

勿論さうした制限案を發案作成せらるゝ人々の心理といふものは明々白々、今更、質疑の限りでない。彼等は偏に漸進主義、だからである。漸進主義者の心理に、私は二つの大きな流れをみる。その一は先天的男性優越感であり、他は、本能的父權主義である。所謂尙早論者の多くは因襲的な男女觀の所有者である。彼等には傳統的に植ゑつけられ見せつけられた男女兩性の差別不平等、男性優越、女性低劣觀といふものが、どれほど努力して自らを現代化してみても、根本的に掃蕩することの出來ぬ根づよさを以て宿つて居る。私は今日漸進主義を持つて立ち婦人公民權の制限賦與を發案せられる方々の血管に、さうした偏見の血が全く流れてゐないとは斷言出來ないとおもふ。「女が男と同樣に天下の政治を云々する」。それは地を行く人が空を飛ぶほどの驚異なのである。—それが確實に可能な事實である

にも拘らず。然し、さうした婦人に對する偏見の外に漸進主義者の胸中には、私がそれを名づけて「パターナリズム」とよぶものが往來してゐると思ふ。制限案と云ふ言葉を初めて私が耳にした時、直に、私の心に湧いて來たものは、これを一括してパターナリズムといふ言葉にあてはめらるべきものであつた。公民權の制限的賦與！それは大きな老舗、商法の家元が番頭に狹い暖簾を分けてやつて小賣の店を張らせるといふ事實に幾ゝか似通つたものがある様にも思へる。親元と小僧上りの小賣店主とは斷然格式が違ふ。「受くるより與ふるは幸福なり」、權威と尊貴とは絕對に與ふる側にあつて受くる側にはない。

參政權の割愛！それはまた次の様な感もあたへる。親を失つた孤兒に對して一時的、親權行使者が、やがて、成年に達した當主に即座に、無條件であづかつた財産の讓渡しをすることを肯ぜず、その獨立性を無視し、言を左右に托して、いつまでも後見役を繼續してゐる狀態にも見える。

◇

尤も斯うした、一面に巧利的の立場からでなく、もつと〱純眞に、所謂、子を思ふ親心の中に本能的なパターナリズムといふものは發見される。親はいつになつても子供は一人歩きの出來ぬ者の様に思ふ。何につけかにつけ、眼に入れても痛くない様に生涯子供の世話をし子供の行末を見守りたいのが本當の親心であらうが、獨立獨行の自覺が確立し獨立の能力の備つた成人した者にとつてはかうした親心は一面に迷惑でないでもない。さうした干渉主義は屢々獨立自由人の自尊心を傷け、又、往々にして事實上被護者の獨立性を失はしめる事となる。「完全なる公民權をかよはい婦女子に與へる事は荷が重すぎる、然し、折角あれほどせがむものだから、まあ、少し賦けて與つて、實際、やれるか否かやらして見たらいゝ、それで多少見込があれば、だん〱にまあその後の分の事は考へて見てもやらう」。と、制限案の發案者がこの通りにお考へになつたと斷言は出來ないがさうした心理の臆測は私には出來る。それは誠に勿體ない親心である。が、然し、少しく有り難迷惑の感無きにしも非らずである。斯うなると、私は、少し開き直

つて「一體、公民權とか參政權とかいふものは何か」と尋ねたくなる。公民權といひ、參政權といふそれは、ある特定の人の特權ではない、男ばかりの物でもなければ、女ばかりの物でもない。それは云ふ迄もなく、獨立の人格者として社會を構成する各員が當然保有すべき權利であり、又當然負擔すべき義務である。其處に何物か恩義的意味を加味して與へるとか受けるとか、云はるべき性質のものではない。私は、この故に、折角の親心を持たるゝ漸進主義者の態度をあきたらなく思ふものである。故に質疑を發して「漸進主義容るべきか」と云はれれば即座に「否」をもつて答ふるに躊躇せぬものである。

◇

制限案反對の運動は最近に於ける我等の會報が報ずる如く已に婦選獲得同盟の幹部連によつて、試みられ三箇團體共同の聲明書なるものが公表せられて居る。又、各方面からその不當を難詰するの氣勢が昂つて居る。

然し私は、所謂その聲明書なるものが空しく握り潰さるゝの運命を豫測して憂慮措かざるものである。

制限論者は、歐米先進國に於ける婦選獲得が漸進的であつた事に立脚して、我國に於てもその當然性を主張せられる。然し彼れと此れとは全然時を異にして居る。婦選の問題は今や世界的に或る程度迄解決のついた問題となつて居る。それは全然前人未踏の境地を行く樣な冒險の事業ではない。參政權が婦人にタブーの時代は已に通り越して了つて居る。この事の合理性、可能性は已に先進國に於て實證せられて居るのである。

尚早論者は云ふ「女には政治は分らぬ、投票權を與へてもその行使法を知らぬ」。と、勿論從來の婦人は政治上の知識は皆無で、また、興味も全然無かつた。然し、それは單に長年月に亘つてさう習慣づけられた結果に過ぎないのである。婦人の頭を新らしく政治の方面に向けかへ正しく習慣づければ婦人にも男子と同樣の知的活動は可能となる。看よ、婦人に自由教育、職業の機會が與へられて以來、その可能性は歴々として現はれ來つゝあるではないか。

◇

或る人々は云ふ、「先づ政治教育を先にし、然る後行使權を與へよ」と。これは一應尤もの樣であるがその理論と信仰とは今日の教育哲學の立場から殆どその合理性を失つて居る。「すべての知識は實際を通じ、經驗を經て始めて眞の知識となる」學校の先生となるために如何程教室で教授法を學んでも一向物にならない、實際先生として立つて、度々の失敗や成功を重ねてみて始めて分つて來る。西洋料理の食べ方を如何程丁寧に教はつても、ナイフやフオークの持方をいくら幾何學的に知つて居ても、實際おいしい料理の皿數を重ねなければ巧みな使ひこなしは體得されて來ない。公民權、參政權もその通りである。「先づ與へよ、然らば爲さん」と云ひたい。與へられゝば義務と責任とを感じてくる。その新道德觀念が無知未熟な婦女子を驅つて思慮あり、熟練なる權利の行使者たらしめるのである。可愛い子供をいつまでも親の側に置けば遂に無能になつて了ふ。「可愛い子には旅をさせ」である。思ひ切つて試練にあはせる事である。今日迄の婦人はあまりにも庇護されすぎてゐる。荒い風にもあてず深窓に据え置かるゝ事は結極その一生を無爲に終らせる事になる。多くの人材が無駄に朽ちる事になる。我々は緊縮を叫んで物質の無駄を省く前に逸早く人材の無駄を省かねばならぬ。更におもふ、現代社會の鬪爭と苦惱とは一面に男性文化の行詰りである。これが徹底的解決は男女兩性の社會的地位の徹底的改造であらねばならぬ。それが我國刻下の急務である。

◇

吾々は漸進主義者の制限案に對して絕對的に戰はねばならぬ。乍然、漸進主義を排する者にはそれだけの覺悟と準備とがなければならぬ。「よく戰ふものは不敗の地を占めなければならぬ。」からである。故にこれが對策としては私はこゝに、一二の蛇足を加へてこの稿を終りたいと思ふ。

對制限案策の第一は、婦選諸團體及その各員の完全なる縱隊同盟である。今日婦選を標榜する團體は五指にも餘らうとしてゐる。その各々はそれ〴〵特殊の立場に立つて該問題の解決に當るのだといふ。然し、吾人はおもふ、その團體の一つでもが多少でも巧利的立場から婦選大衆の意志に逆行するやうな運動を爲すものがあるとすれば、それは

婦選の全體からみて不敗の地位にあるものとは云はれない。婦選の運動はその各員が絶對にその呼吸を一にし、その步調を揃へるのであらねばならぬ。萬一婦選運動中に女性間の階級的鬪爭とか個人的反目といふやうなものが潛在するとせば、已にそれは敗者の地位を暴露するものと云はねばならぬ。婦選は女性といふ普通名詞の下に一括された存在でなければならぬ。我々は我々の共同の敵に對して、一貫した軍令の下に、不屈不撓、背水の戰陣を布かなければならぬ。

婦選の運動は、その鬪員が無產黨から出發するのであつても、或は、有產階級から名乘りを擧げるものであつても相互の間に百パーセントの理解と協調とがなければならぬ。

常に、合理的に、科學的に、その標的と手段とを純化して行かなければならぬ。婦選の運動は一の水平運動である鬪員の一人でもがこの意識に出ない限りは運動の大成は期せられない。私は、自分自身もさうだと思ふが、まだ〱今日婦選を希ふ我が婦人たちに熱が足りぬとおもふ。看よかの英國に於ける婦選運動史のあとを。吾人はもとより、目的のために手段を選ばなかつた彼女等の非文明的行爲を蔑みするものである。然し彼等は、運動のために眞に生命を賭したのであつた。我等の婦選獲得には、まだ犧牲者の出やうが足りぬやうにもおもへる。今日婦選の名さへ知らぬ學校の先生があるといふ事は嘘の樣で本當の話である。私は思ふ「卑しくも婦人の居る處必ず婦選の意氣が昂がる」といふ程の徹底した戰線の擴張振りであらねばならぬ。我々の一人々々が常に肩にかゝる婦選の重荷を意識して來なければならぬ。婦選に無關心なるものは、今日、女性といふ肩書の冒瀆者であると。

◇

對制限案策の第二は、我々女性の實力の證左である。現在與へられたる地位に於ての最大能率の社會的活動による我々の力の徵しを見せる事である。漸進主義者は「徵を見ざれば信ぜぬ人達」である。英米の婦選運動家にとつて世界大戰の勃發は、塞翁が馬、絕好の登龍門であつた。正義の實戰に參加して男性と同等の勇氣と活動とを示した女性

の意氣と實力とが遂に反對黨の口を塞がしめたのであつた。といつて吾人は我が婦選獲得のために大戰の再發を欲求するほどの愚さはないが、しかしよし干戈は交へずとも、戰線には、立たずとも、今日の社會、今の日本には殆ど戰時に等しき苦鬪の實相が現はれてゐる。吾々の前には幾多の問題がその迅速、正義の解決を迫つて居る。登龍のチヤンスは捉ふるに任せてあるの觀がある。然し女性の社會的活動といふものは、お孃樣のお料理のやうな氣まぐれやお上品さではいけない。徹底的、組織的なそれでなければならぬ。而して社會的進出に先立つて爲さるべきものは徹底的な生活改善であらねばならぬ。就中きりつとした活動の姿を整へるといふ事は急の急なるものであらう。ショート・スカート、ショートシユリーヴを目して、他人は、エロの嬌態だとする。然し私は、それを稱して活動を主とするプラクテイカルスタイルだといふ。

女性よ、長夜の惰眠から醒め、偸安の几帳を切り落して、出でゝ社會を看よ。又、汝自身を看よ。そこに汝の力を呼ぶ聲が明瞭と聞えるであらう。汝の智を盡し、汝の情を傾け、汝の身を堵して戰へ。はてしなく子を思ふ愛の親心は、エネルギーの汝を見て始めて安堵と信頼の笑みを洩すであらう。

お斷り 前號募集の本部事務員は已に決定いたしましたから、左樣ご承知下さい、本誌を通じての御申込が、未だに多數來ますので、一々お斷り狀はさしあげて居りますけれども、こゝに一寸お斷りをかきます。

職を求めます。 東京近傍で、時間的制限のある堅實な仕事に、給三、四拾圓位で傭はれ度うございます、こちらは女學校教師、廿三歲で、勉强の爲、上京を望みます。兩親は東京に居ります。詳細は御照會下さい。(甲府市湯田町四一、栗澤方　安江松子)

婦人の公民教育必迫す

河崎なつ

◇近づく一票の行使

婦人參政權問題も論議の時代は遠く去つて今年は政府案の婦人公民權案に貴院も賛同するであらふ瀬戸際にまで乘り進んで來た。

即ち八月十一日の諸新聞は

1 年齡十五歳以上二年以上同一市町村に在住の女子を公民と認め

2 市町村會區會議員の選、被、兩權の外、市町村長その他の市町村の名譽職（學務委員市參事會など）に選擧せられる權利と義務を負はしめる。

といつた公民權案の內容の發表が安達內相によつてなされたのであつた。從つて、婦人も近く

1 我が市我が町村を明るくするにはどんな仕事をするのがよいか

2、そのためにはどの議員が適任者か、

ちやうど我々婦人が開闢以來始めて持つ、淸き一票の行使に當面するわけであ

海外だより

▼上院解放に向つて

英國では男二十歳女三十歳といふ年齡上の違ひはあつても、とにかく婦人參政權を認められたのが一九一八年。それから十年の惡戰苦鬪の後、やうやくのことで男子同樣二十歳で全然男女平等の參政權を認められたのが一九二八年。イギリスでは女の代議士が出來たと大騷ぎをしたのも今は十二年の昔。けれどもそれは下院のことで、上院には依然女流議員の活躍を見ることが出來ないでゐる。そこは何と言つても保守的な英國である。

そこで、去る七月十六日英國最初の婦人議員であるアスター夫人の良人である上院議員アスター子爵が一肌ぬいで男子と同資格で婦人も上院議員たり得るやう提案したが僅か六票の差で惜しくも敗れた。

▼結婚をさまたげず

獨身で通せば一人前で通るものを何を好んで女の人は結婚するのかなと、長嘆息した人もあるといふ。いつの頃からか英國では結婚婦人は教師に雇つて貰へないといふ事件が頻發するやうになつた。そこで、その否を鳴らし、猛運動の結果、去る七月二日その法律改正案が下院を通過した。今期

る。一體新に公民と認められる千二百萬の私共婦人は、その一票を、我が村我が町我が市のために極めて至當に使へる心構が既にガッチリと出來てゐるであらうか。三千年來始めてそんな世界を覗かうとする私共婦人に、恐らく十分な準備があらう筈はない道理、そして又知らなくとも今は耻ではないかも知れぬが、いつまでもそれでは役目が果されぬ。いまこそ婦人自らも世の爲政者も内外共に公民教育にその全力を注ぐ可きであり、注いでもなほ追つかぬほど時勢は迫つて來てゐるのではないか。

◇公民教育促進の方法

さて公民教育促進の方法として、私は次の二方面に考へ度い。

1 學校教育に頼んで、やがて背負つて立つであらう、若い人達をいまから教育してをくこと。

私の知れるかぎりに於いては、從來行はれてゐた、學校での公民教育は小學校六年間に、修身科と讀方に各二課宛あるばかり、實業補習學校と男子の中等學校では必修科として、毎週一二時間を課してゐるに、女子の中等學校では未だに隨意科であつて、一週一時間づゝ敎へてもかまはぬ、といふ有樣。

これでは國民の、就中女子の公民教育が意味をなさないので、文部省でも漸く此の頃時勢に鑑み、その女子中學校制度調査委員會案でも、全國高等女學校長會議案でも、高等女學校の最高學年で毎週一時間づゝ必修科として公民科を置くことになるらしく仄聞する。

これでも、いまの狀勢に妥當でないことと明白で、今年四月の第一回全日本婦選

議會では上院の方には廻されぬらしいが、これでこの運動に曙光を見出したわけで、今秋の運動には大いに油が注がれるであらうし、一旦下院通過とまで漕ぎつけて置けば、輿論の手前、地方の學務局あたりで勝手に單に結婚してゐるからとか結婚しやうとしてゐるからとかいふ理由で女敎員の資格を剝奪するわけにはゆかないであらうと米國の婦人達は大喜びである。

▲創立三十年を祝つた婦人有權者聯盟

アメリカの婦人參政權協會が、婦選獲得後、婦人有權者聯盟と改稱して以來十年になるので、去る四月にはその記念會が開かれた。そしてアメリカの婦選運動の功勞者の名簿をつくつて、その人々を列記することになつたが、その冒頭にはアメカばかりではなく世界の婦人解放運動に多大の貢獻をしたスザン・ビー・アントニーやアンナ・ハワード・シヨウや、チヤリー・チヤプマン・キヤットの名が輝やいてゐる。

婦人有權者聯盟の會長は溫厚で聰明なベル・シアウキン女史である。六年の間聯盟を率いて、婦選獲得後の實績を擧げるために闘つた人である。

歐米人は一事業十年は當然と考へてゐるやうであるが、この婦人有權者聯盟は婦選獲得後の十年間に何をしただらうか。

各州に於ける選擧制度の改正と向上のため、婦人及び兒童の勞働時間の制限法制定

大會では五百の婦人代表者が婦人の公民教育の必要を叫んで

1小學校では高學年に於て、適當に時事問題を解說し

2女子の中等學校では低學年より必修科として公民科を每週一時間宛教授する

ことが最も時機に適した案と決議してこれを文部當局に齎したことは當時の新聞に明白である。

所が時勢の必迫は、更に七月卅一日の東京朝日にみるやうに、政府の選擧革正調査委員會は、政治革正の根本は國民の政治教育に俟つ外はないと論斷して「學校の政治教育」では

1高等小學校以下では公民教育を施し

2高等小學校以上では政治科を設けて政治教育をする

といふ一層徹底した方案が示されてゐる。此の案と今日迄の學校の公民教育との甚しい懸隔は、以つて今日公民教育の必迫を如實に物語つてゐるものと言へよう婦人大衆は後に來る若き人々のために宜しく教育の當路者を動かしてその改正に熱意を寄せしむべく、文教の府の當局者はこの大勢に鑑みて速かに學校の公民教育制度を改正するの責任がある。

◇婦人自身の覺悟

然し已に家庭人として社會人として實生活に入つてゐる婦人には、學校での此の革正には遺憾ながら所縁がない。從つて我々一般婦人のために私は更に次のやうなことを希んでゐる。

イ、まづ文部省及各地の成人講座には速かに「婦人と政治」の講座を加へること

ロ、内務省は省費をもつて、たとへば「婦人公民權早わかり」といつた風な小冊子を至急印刷して各家庭に配つてほしい。

のため、母性及び子供の保護衛生に關する規定のため、婦人に對する種々の不公平を除くため、等々といろ／＼あるが、一貫して重要な働きであるのは、有權者學校、棄權防止運動、候補者の政見聽取の會、ラヂオ利用の公民教育、全アメリカの各所に開かれた研究會などで、これらはアメリカの共和政治徹底のためにいつ迄も必要なものである。

シアウキン女史は會長に再選し、更に二年間指導者としての勞苦を惜しまないことを誓つたが、一方女史は國際婦人參政權及同等市民權同盟の幹部に選ばれたにかゝはらずこれを辭退して惜まれてゐるが、辭退の内面の事情は知り難い。

▼二つの國際婦人大會

八月中に開催された重要な國際婦人大會は、ハワイで開催の汎太平洋婦人會議と、も一つは、每年代表者達が歐洲に出かけて各國の職業婦人との接觸を計つてゐるアメリカ職業婦人聯盟主催の第一回國際大會。

▼汎アジア婦人會議

こゝにも目覺めゆくアジア女性の姿、七月中にダマスコで五日間汎アジア婦人會議が開かれたがレバノン、シリア、ペルシヤアフガニスタン、ギリシヤあたりから代表者が出席し、インド、トルコ、エヂプト等からは祝辭が送られたといふ。

ハ、遞信省は、所管のラヂオに政治放送をどしどしと許してほしい。「政治と臺所」「公民權と婦人」とまあいつた放送を、市川さんほどの第一人者が次にそれぞれの識者が放送する。全國百五十萬のレシーバーから、臺所に芋の皮むくお神さんも座敷に縫物をする主婦も、講堂に居並ぶ百千の女學生達も、道行く人々も、聽き知つてゆけるやうになりたいものだ。

ニ、又各新聞の婦人欄、各婦人雜誌、或は婦人にも購買されようと希ふ程の雜誌といふ雜誌は「市町村政と婦人」「婦人學務委員の仕事」とか何とか樣々の題目をあげて「婦人と政治欄」に多くの紙數を省いてほしい。

ホ、それよりも全國の各婦人團體はまづ政治部をおいて研究し、それを機關紙を通じて所屬婦人に通報するの責任がある。そして次いで、最寄會或は總會には話の中心をここに置いて一層の理解につとめ、更に其の會が中心となつて其地其地に座談會講演會を開いて、婦人の社會意識を高めることに努めるのは至極意義あることである。そして又、全國のあらゆる婦人團體は各代表者を送つて、第二回第三回さては第四回の全日本婦選大會を開いて相互の社會的政治的知見を廣め、これを各地元の婦人に、或は各所屬の會員に報告するに至つて、効果は一層大であらう。最後に

「婦人も良き市民であり村民であり町民である」

「婦人も我が市我が町我が村を明るくしよう」

等等…のスローガンを高く揭げて小旗ふり一大行列にまでいつてもよい。若しかしたら少し脫線するとしても、これは婦人に取つては極めて愛すべく珍らしき遊びであつて、かの當節大流行の麻雀などにまさること萬々である（餘り今日は蒸し暑いので筆者少し脫線したらしい。八月廿三日）

政界夜話

I・V・W

政治を正しく理解し批評する資料として、今月から政界の内輪話し—新聞にも出ない政治界の出來事を正確に黨派に關係なく、專門家の方に話していたゞいて書く豫定にしてゐたのが、間に合はなくなつてしまつた。それで今日は素人の私が間に合はせに、少々書いてみることにする。

閣僚夫人

本誌が婦選であることに敬意を表して先、閣僚夫人の近況から御報告しやう。江木鐵相と小泉遞相には奥さんがないが—第二號の有無は保障の限りでない—其他の閣僚には、何れも歴とした令夫人がある。然もそれ等の夫人の中には、他の内閣にまれにみる良妻賢母が多く、家庭も概して圓滿なのが多いらしい。

第一に首相夫人は病身で床にゐる事が多いが濱口首相は田中前首相が第二號の別宅に始終入りびたつてゐたのとは雲泥の相違で、節約主義から官邸に住ひ、夫妻相向つてカメラに入る程の圓滿振りである。

安達内相夫人の良妻賢母特に良妻振りは、今春の總選擧當時、毎日私邸から官邸に辨當を運んだことで有名である。が夫人はそれだけでなく、社會事業や婦人運動にも理解があり、閣僚夫人達を引張つて營養研究所だの貧民窟だのを視察したり、或は閣僚夫人達から金を集めて、米や浴衣や玩具を貧民やその子供達に與へたりしてゐる。

前政友會内閣内相望月氏が婦選に反對し女はおしめでも洗つてゐればいゝといつたのは、同氏に夫人がなく、毎晩赤坂あたりの待合に入りびたつてゐた爲めだつたとしたら、現内相安達氏が婦選に贊成し、市町村だけにしろ公民權案を提案せんとしてゐるのは、この賢明な夫人のせいだといふことにもなる。

田中文相夫人はお茶水女高師卒業の教育者出身である所から、文政に素人な文相にとつては顧問であるさうな。此頃は安達夫人に伴はれて、婦人參政權の會合にもちよい〳〵顏を出してゐる。

町田農相夫人も女高師出身である。

松田拓相夫人は美人で夫婦仲もよいとの評判だが、拓相自身どうしたものか外へ出したがらない。婦選に絶對反對の拓相の事だから、夫人にも文字通り奥樣を强いてゐるのであらう。但し流石の拓相も夫人が安達内相夫人に誘はれて外出するのには小言をいはないさうだ。

井上藏相は頭のいゝ事では、無產派の理論家にも感服されてゐるが、婦人に對する理解は全くゼロらしい。その證據に藏相は昨年の秋の首相官邸での婦人團體の會合で、まるで子供に對するやうに四十二億圓を婦人がぜいたくをして費消してしまつたと講演して、婦人側から甚だしい不評判を買つた。

したがつて家庭生活も面白くないらしく、殆んど夫婦別居の狀態であるらしい。

A代議士との對話

某日、某所で、民政黨の少壯代議士として知られてゐるA代議士と筆者との對話。

『此間日比谷の公會堂であつた民政黨の演說會はどうでした。井上、永井、中野なんて花形役者ばかり出したんですね。』

『いや、閣僚の中で他の人達にも交渉したんですが、江木にしても松田にしても皆尻込みして陣頭に立たないんです。そこへ行くと兎に角、藏相はこの不景氣の責任者として人氣の惡いのを承知しながら、進んで大衆の前に立つだけの勇氣と信念を持つてゐるんですそんな譯で藏相をどこへでも引張り出すより外ないんです。』

『黨內での藏相の人氣はどうです。』

『黨人になつてからまだ二年位にしかならないんですがな、外の人だつたらとくに投げ出してゐる椅子を、とにかくどし／＼やつてゐますからね。僕等はきつと切拔けてくれるものと信じてゐます。

それにしても他の閣僚が井上藏相を援けなくてはならないのですが、その點はどうもうまく行つてゐない。大分駄目なのがゐますからね、松田にしたつて拓務大臣としてこの不景氣や失業を救ふのに、何か經綸を示さなければならないのに一向だめだし、俵にしたつて、町田にしたつて、田中にしたつてからつきしだめで黨のためにもなつてゐない。これ等を取り替へると少し人心が新になりますがな。

小橋のやめた時に永井を後に据えればよかつたのに、田中では何にもならない。』

『政黨內閣である以上、閣僚の新任交迭にはもつとあなた方の意志が加はるべきですね。』

『さうですよ、僕は此度何かの機會に黨代議士會で不信任を表された閣僚は辭任するといふ案を出さうかと思つてゐるんです。尤も表向きには、閣僚は陛下の親任だから、まあ內規といふことにして。』

『政務官の交迭問題はどうです。政友

會内閣の時には大分露骨に、不平組から出ましたね』

『民政黨でもありますよ、近畿團體では、政務官の交迭を決議したとかいふことだから、武内作平君あたりが、それを持つて來るでせうよ。』

『尤も政務官の交迭運動が初まるのは内閣の壽命が切れさうになつた一つの證據だつて或新聞が書いてゐましたね』

『ハヽアー、なるほどそれも一理ありますね、それはたしかに人心のうんで來た證據ではありますからね。』

パンフレット競爭

今年の二月の總選擧當時には、民政・政友とも、新聞廣告、パンフレット競爭といふ新らしい戰術で盛に鬪つたものであつた。

その内容はくだらないものではあつたが主張を大衆にうつたへ、其批判に俟つといふのは、確にいゝ方法で、一つの進步といふ事が出來た。

所でそのパンフレット競爭がまたこの暑い最中に初まつた。それは現在の不景氣問題を中心とする朝野兩黨の大立物の競爭である。

今筆者の眼にとまつたものだけをあげてみても次の如き種類がある。

井上準之助著　(經濟知識社發行)
世界不景氣と我國民の覺悟
四六版九〇頁、金三十錢

江　木　翼著　(國產愛用國民協會發行)
斯くして我產業界を建直すべし
四六版五二頁、金十五錢

山本條太郎著　(日本評論社發行)
經濟國策の提唱(國民繁榮への道)
四六版三九四頁、金五十錢

武藤　山治著　(東洋經濟雜誌社發行)
井上藏相の錯覺
四六版一六六頁、金三十錢

井上準之助氏は說明の必要はあるまい江木翼氏は前司法大臣の現鐵相、安達内相と相並んで、民政黨の中心勢力を代表してゐる。

山本條太郎氏は政友會の現政務調査會長で、此度の經濟調査隊の總指揮官、前滿鐵總裁で政友會の大立物である。

武藤氏は前鐘ケ淵紡績會社々長で、國民同志會の會長、井上藏相の好敵手である。

各パンフレットの内容はこゝには略する。書店の發行であるが宣傳費でも出てゐるのか、頁數に比して何れも非常に安いから、比較購讀されんことを讀者におすゝめする。

舅姑役の樞密院

此頃の新聞紙には、樞密院のお爺さん連の顏が殆んど每日出てゐる。

さういふ記事を讀むだけでも暑いのに首相初め閣僚は、足留めを喰つて、ロン

ドン條約が一日も早く批准されるやう奔走してゐる。

外國との條約は、英米に於ては議會がこれを審議して可決したのを、皇帝或は大統領が裁可することになつてゐるが、日本に於ては、議會ではなくて樞密院にその權限が與へられてゐる。

樞密院は天皇の諮詢府で、條約及勅令の他、議會を通過した憲法附屬の法律はすべてこの關門を通らねばならない。

倉富議長、平沼副議長二上書記官長の外に二十四名の顧問官があり、秩父、高松、閑院三宮殿下も參加されることになつてゐる。

議事は先委員會によつて審議され、次いで陛下の御親臨になる總會に於て決せられる。

所がこの樞密院は、事實は、政府の舅姑のやうな役目までつとめ、時には、內閣からいびり出すことがなくもない。現に若槻內閣は臺灣銀行救濟の緊急勅令案を否決されて、直に總辭職をしたし、前の田中內閣は不戰條約の『人民の名に於て』の文句で散々とつちめられ、內閣總辭職の原因の一つをつくつたのであつた。

此度のロンドン條約については、樞府としては否決する程の勇氣はあるまいが然し、軍國主義者、反動思想家が大部分だから、內心では贊成してゐまいし、それに政友色の濃いのが相當あるから、それこそうんと油をしぼられることであらう。

然し、ロンドン條約の關する限りに於ては殆どすべての言論機關が政府を援助してゐるのであるから、最初の聲明通り堂々と所信を述べて衝突する迄やればいゝが、扨、それだけの決心が政府にあるかどうか。

現內閣はいつまで續く

此頃政友會の代議士に會ふと、政權がつい眼の前にぶら下つてゐるやうな事をいふ。

『暮迄は持ちませんよ、ロンドン條約と不景氣問題で倒れて、後は犬養氏を首相とする政友會內閣が組織される』さう政友會の思ふつぼにはまれば拍手喝采だが、さて、さうなるかどうか。

消息通にいはすれば、政府はロンドン條約では倒れまい。むしろ倒れるとすれば昭和六年度の豫算編成難であらうといふ。

所で暮れに倒れたらどうなる――第一に陛下のお使ひとして牧野內府あたりがすぐ興津の西園寺公へ飛ぶ、此間色々の策士が宇垣氏や齋藤氏あたりを擁立しやうとするが、西園寺公は勿論、反對黨の

『異國點景』を讀む

金子しげり

吉屋信子女史が外遊記念の『異國點景』が民友社から出た。これは私にも尠からぬ緣のある著とて、今年の夏、都にこもりゐの一日繙く折をえた。

×

吉屋女史の外遊は一昨年の秋の出發であつた。そして此行の最初を、私は偶々共にしたのであつた。東京からハルビン迄——この著の初めの頃に度々出てくる婦人運動の鬪士方の一人はかくいふ私なのである。

×

この旅行の後、秋がくれば、私は滿州を戀ふる。それだけに第一頁から、興深くよみ初めたのだつたがハルビン以後を、實は、私は、更に一氣によみ下したのだつた。

なぜならこの一卷は——巴里のマロニエの落花、倫敦市外の牧場につみし雛菊、旅日記の頁に挾めるを故國に殘りて年少の友へ、その幾片を贈りしに似て、小さき旅の押花を集めし如きこの一卷、ひもとき給ふ人々、押花以上の多くを酷に求めたまふな——との著者の言葉のごとく、まこと輕やかに描き出された水彩の斷片であつたからである。

×

「旅する事の少い日本の婦人に、まことに心安くよまれる好著。」それが私の讀後感だ。

讀者はしばらく、うるさい日本の世の中をぬけて、かろ〳〵と著者と共に伊太利にゴンドラの正體をみ、巴里の花火を觀賞する。

これは、余多ある旅行記、殊に男性によつてかゝれたのでは得られない事である。

×

蘇峰先生の筆を模した『倫敦遠足記』の才筆には、德富先生も破顏されたらうが、私はより『ミスあめりか』を愛する。著者の肌合がこの國の水に一番適したらしい事が、たのしくよまれる。

だが然し一卷を通じてしみ〴〵と讀後の胸を動かしたのは、卷末の創作『凡下のこゝろ』だつたといつたら作者はどんな微笑を漏らすだらう。

×

げにも愛すべき『凡下のこゝろ』の女主人公は勿論そのまゝ作者ではないが、世界の旅を了へた作者の心が生んだこの女主人公であればこそ、かくも愛すべきだと私は斷じたいのである。

（民友社發行、定價壹圓八拾錢）

政友會總裁犬養氏を推す。さうして政友會內閣が出來る。然し政友會は議會では少數黨であるからいくら國民同志會あたりを引張つても二七〇餘名を擁する絕對多數の民政黨には追付かない。——議會解散——總選擧——特別議會開會と恰度今年民政黨がとつたと同じ經路をとる。

——すれば婦人公民權はすつとんで、來年の暮れの議會まで待たねばならない尤も來年になつても、また望月氏あたりが內相になれば、婦選尙早で片付けられないとも限らぬ——これはまあ別として政權を引き受けた政友會が、この難局を充分に切拔け得るかどうか、山本氏は第一期計劃として十年後に二十五億の生產增加を主張してゐるが、國民にはまだまだ田中前政友內閣時代の惡政の印象が相當殘つてゐるらしいから、もつと具體的な、可能な政策でなければ受け入れられまい。



佛教から見た婦選

米山久子

我國の上代には全くなかつた婦人の奴隷道德即ち女大學が出來上つてから、女性は實に苛酷なる纏縛をうける樣になつた。そこには極く大まかに見ても凡そ三つの理由のある事はおそらく婦人問題について心する人の等しく云ふ處である。曰く佛教女性觀の影響、儒教女性觀の影響、今一つは武家の家族制度の影響。もしもかう云ふもの丶影響さへなかつたならば、斯樣な奴隷的な性道德は決して出來上らずに濟み、我國の婦人はおそらく世界一の優秀な女性となり得たかも知れないと想ふ。併し永い間このひどい服從道德で馴されてきた女性の血は、當然の結果として女自身の境遇を反省することさへ敢てしなくなつたのである。それにはいろ〳〵な關係もあり細しく解きだてすればきりがないが、先づ其中の佛教に就て私が常に痛感してゐる點だけを述べやうと思ふ。

我北陸地方一體は全國から見て佛教の最も盛な土地といつても、恐らく過言ではあるまいと思ふ。それ丈にその影響をうけてゐる點がひどい樣に想はれる。私達がこの地方でこの婦人達に婦選問題を說かうとするに當つて殊に注目しなければならないのはこの點である。如何に黃色い聲をふりしぼつて婦選の正義を叫んでも、佛の慈光に愼ましい安住と「惡人女人」といふあきらめとに、控目に內輪に從屬的に奴隷的にといふ觀念の濃厚である以上、私達は一方佛教からはつきりした誤解を一掃して、はつきりと女性を意識させることは、實に肝要だと想ふ。のみならず、婦人問題などの著作をザッと見ても其著者達が、何でも佛教は婦人を輕しめてゐる、其教旨の影響なりと云ふ處までしか書いてないが、私は全く不滿に想ふので、其は決して佛教本來のものでないといふことをいひたい。

○

武家的家長制度が徳川期に於て一層貫徹された上に、徳川幕府がその政略上儒教を重じて官學と定め、儒者を厚遇して儒教的思想の普及宣傳につとめたので、徳川時代に於ける婦人觀は實に男尊女卑即ち（三從七去）といつた樣な、今日から見れば是れは殆んど滑稽といひ度い程の忍從をあえてせしめた。それに在來の國教であつた佛教がそれの五障と配合して、女人は「五障三從の身」といふ樣なことを吐き出す樣になつた。かくてあらゆる方面から當時婦人をして制度の下づみにしてしまつたのである。もはや今日の婦人はこの迷妄の浸潤を頭から拭ひ去らねばならない。そしてはつきり女性を意識しなければならない。

佛教は法界平等といふことが本來の主義であるから、同一人類の男女に對して尊卑優劣の差別を立てることはない。しかるに實際佛教祖論の中には極端なる男尊女卑の如き語句を多く見るのみならず、昔から歴史的にもその踉跡が歴々分明なるはどんな理由であるか、佛教の女性觀を究めやうとするには一應この邊を調べる必要があると想ふ。

印度は元來實に階級制度のひどい國であるから、男女の區別等差も非常な懸隔があつたもので、釋尊の出世の時代はその最も甚しい際であつたのを、釋尊が平等主義を以てこの大なる弊風を打破せられたのである。私はある書でみたがこの事を米國の碩學アーサリー氏が

一、一夫多妻の風習を不道徳と論破し奴隷制度を排斥したものは佛教なり。

一、家畜同樣に看なされてゐた女子を男子同等の位置に進め精神的發達を計りしは佛教なり。

と評論してゐるといふのを見ても、佛教は男女平等主義であることが知られる。併しこゝに一言加へて置かねばならぬのは、佛教でいふ平等といふことは決して差別の方面を見ない平等ではなくて、平等差別即平等といふことを云ふのであつて、同一均等になるといふのでなく、男子は男子なるが故に尊く女子は女子なるが故に尊しで、草木などを同一寸法に剪り揃える樣に平坦に引きならしたやうにして平等といふのではない。山河の高低、柳は綠花は紅、鶴は長く鴨は短し、その儘にして平等といふのである。それ故男女の區別は判然立て乍ら平等に扱ふのである。即ち一寸坐位を定めるにしても比丘（男僧）比丘尼（女僧）優婆塞（信男）優婆夷（信女）と順序を立てるやうに平等の間に差別がある。之を差別即平等といひ禪宗などは更に高處は高平低所低平といふ。つまり平等の中に差別の方面を見ないのは悪平等であり、差別の中

に平等を觀ないのは惡差別といふことになつてゐる。そこで左に何故に婦人に對する痛烈なる惡觀をしたかをしらべて見やう。

イ　惡　觀

一、慾意多き者を女人なりとす（阿含經）

二、女人には邪あり曰く臭穢、惡口、反覆、嫉妬、慳貪、過行、瞋恚、妄語（増一阿念經）

三、一度女を見れば眼の功德を失す從ひて大蛇を見るとも女人を見るべからず（寶積經）

四、女人は地獄の使なり能く佛の種子を斷ず（華嚴）

五、女人は百惡の長なり

此外法華經には五障を說いて女人は輪王梵王帝釋魔王となることを得ずとあり、その他四障五障などゝ說いてゐる。斯様に、女人に對して實に言語同斷に侮辱してゐる様で、女人は勿論男子でさへおどろくほど惡口してあるが、ここをはつきり知らねばならぬ。とんだわき道へ行つてはならない。即ちこれは女人に對して惡口をせられたのではなくて、男子が色慾に溺れるから此惑溺を防ぐ爲に、男子を警策せられた語である。印度は熱帶國で國民は非常に淫欲の熾んな人類であるゆえ、この位痛烈に警誡をせられねばならなかつた。決して絕對に女人を惡魔視せられたのではない。その證據にはこの反對の語がある。

ロ　善　觀

一、甘美先きに食せず夫罵れども恨みず邪非を得ず夫の長壽を願ふ夫出づれば家を整ふ（玉耶經）

二、女人に十德あり曰く、大地、能生、能正、養育、智者莊嚴、安穩、教授、教誡、與果（心地觀經）

この外法華經や涅槃經等には女人の功德や成佛すべき事が細々とかゝれてある。

ハ　平　等　觀

一、一切衆悉く佛性あり（涅槃經）

二、若し男子ありて自身に如來の性あることを知らずんば世間は男子と名づくと雖も佛は此輩は女人なりと說く若し女人ありて能く自身に如來の性あることを知らば世間は女人といふと雖も佛は此の輩はこれ男子と說く（大般涅槃經）

三、四大の身は生滅男女の相を見るも而も靈覺の性は實に

生滅男女の相なし（宗鏡錄）

以上は經典一部のひきぬきにすぎないものを羅列したに過ぎないが、能く吟味したならば斯樣に對照すべき語句が限りなくある事と想ふ。とにかく平等觀が佛敎本來の主義であるからこの主義がいつも實地に行はれねばならぬ筈である。三千年の昔已に釋迦は男女の優劣なき對等を說いて居られるにもかゝはらず、今日尙婦選などとうやむやいふてゐる連中を御覽になつたら、さぞ末世の衆生の暗愚をお笑ひになることであらう。

○

けれども事實は中々平等が行はれて居らぬが、之は佛敎の行はれぬ國土風習の然らしむるところである。印度は釋尊滅後に至り婆羅門敎が復興して盛に行はれ、且つ消極的なる小乘敎が行はれた爲女人を惡魔視する樣になつた。

支那に於ては、儒敎が元來女卑男尊の主義にして嚴格なる三從七去といふ樣な敎へが行はれた。併しこれには一寸理由があることを最近德富蘇峰氏の近著で敎へられたが、支那の上代は極めて婦人が有力であつた爲この反動として、その女を如何に馴致するかゞ問題であつたので、猛獸の如き女を如何に和ぐるかゞ問題であつた。動物園で虎や狼を檻の中へ入れる樣に婦人を檻の中へいれなければ婦人の力が素晴らしく强いので、極端に制してきたのである。故に娨婦とか燕虎脂とかいふ語が支那にはある相である。つまり紅をつけた虎といふ、日本の字典にはないといふことである。カンプといふ語も嬶天下位の語で說明が足る語らしい。それほど橫暴な婦人に對する對策として出來上つた儒敎を、我國の武家家長制度はよろこんで取り入れた。そして佛敎者まで女人に對して經典の惡觀を捉へておさへつけんとし、又日本の神道も神は不淨を忌ひ給ふといふ風に、女人を不淨の身とし女人を排斥した。翻つて日本上代即ち萬葉に表はれた女流の歌を見ても判る樣に、我國上代の婦人は實に床しく、とても支那や印度の婦人達とはくらべものにならぬ程、優秀な婦人であつたといふことが史實から見てもあきらかである。故に鎌倉時代に起つた禪宗は、その宗義行持制度は、全く眞宗あたりとは反對してゐるけれども、婦人に對する觀念はかの天臺眞言の諸宗とは全く反對して、眞宗と同じやうになつてゐるのは、一見不思議の樣であるけれどもこれは全く佛敎本來の主義の平等觀からきてゐるのである。日本禪宗列祖の中に於ても、その家風もつとも嚴肅でその行持最も高潔と稱された曹洞宗の高祖承陽大師（永平寺の開山）道元禪師の如きは、極めて劇

しく女人禁制女不成佛の主義を排斥せられてゐる。

大師の「正法眼藏」中「禮拜得髓」の一篇があるがこれは辨道修する上に於て、その師たるべき人は男女を論ずべきでないといふことを論じてゐられる訓誡である。

もし極端に女人を排斥するならば、衆生無邊誓願度なる菩薩の大願に違背することになるといひ、且つ斯樣な偏見は小乘教者の僻見であると、古今の例證を擧げて痛快にいはれてある。

汝等得法敬重すべし。男女を論ずること勿れ是れ佛道極妙の法則なり。佛教を修行し佛法を道修せんはたとひ七歲の女流なりとも、四衆の導師なり乃至佛如來にひとしかるべし。至愚の甚しき人おもふことは女流は貪婬所持の境界にてありとおもふ心をあらためずしてこれ見る。佛子かくの如くあるべからず貪婬所持の境なりぬべしとて諱むことあらば、一切の男子また諱むべきか乃至しかあれは婬欲所持の境になりぬべしとて嫌はゞ一切の男子と女人とたがひにあひ嫌ひてさらに得度の期あるべからず。女人に何のとがかある男子に何の德かある惡人は男子も惡人善人は女人も善人なるなり。乃至男子女人の鑑別さらにあらず。

また日本に一つのわらはごとあり。いはゆる結界の境地と稱してあるひは大乘の道場と稱して比丘尼女人等の來入せしめず邪風久しくつたはりて人わきまふることなし。

しりぬなんぢ聲聞の酒に醉ひて小界を大界とおもふなりねがはくばひごろの迷醉をすみやかにさめて諸佛の大界遍界に違越すべからず。

以上は正法眼藏禮拜得髓中の句數節であるが實によく佛教本來の主義を發揮し、且つ當時日本に於ける妄見を打破せられてゐる。

この高潔なる人身にして即ち佛である祖師の言々句々を見る時、全く現代の職業政治家の濁れる血管にちと注射してさし上げ度い樣に想ふ。鐵道問題などになれば生命掛けにて其可否を爭ふにも拘はらず、婦人參政問題、婦人の問題に對してはこの重大なる人間問題をすら一場の茶番狂言にも比すべき態度を取るとは何事かと想ふ。封建の殘醉尙醒めさるがゆえであるのか、それとも直接利害に關係なきためであるか。

併しながら我々婦人自身にも單に世上の斯る氣分に憤慨する丈の尖端的輕薄に陷らず、よろしくこの氣分を一掃する丈の覺悟と實行が必要と想はれる。よく戰ふものは先づ不敗の地を占めねばならぬ。婦人問題の提唱者たる婦人は先づ自己を即ち婦人を自覺して妄迷の夢をさまさねばならぬ。平和の爲には戰ひ尙必要である。職業政治家達は順風を見て帆をあげるのである。婦人の輿論が強く高まれば必ず帆を上げて進むに違ひないのであるから、婦人の權利は男子の割愛をまたず自ら進んで獲得すべきである。

婦人界展望

八月の動き、ひらめき

八月は、新聞記事の夏枯時。各婦人團體も亦休養期にあるらしいのですが、それでも機にふれての動きが、已に今秋の活動の方向を暗示してゐるといふ事は出來ませう

兩三月、毎號の本欄に報導して來た、婦選運動の最右翼として突如婦選戰線に出現し來つた婦人同志會は、事實八月を休養に費した如くでありますがこれを支持する諸團體に於ては相當に婦選問題について、從來にみなかつた進展ぶりを示したのであります。

即ち、同會常任幹事の一人井上秀子女史の統率する櫻楓會では前號所載の如く八月二日より輕井澤に開いた第二回夏期大會に於て豫定の如く第六日の八日午後二時より參政問題に關する協議をなし、第一、婦人參政促進に就いて、第二、婦人同志會に就いての二項目について懇談の上「全員双手を擧げて婦人同志會に加入する事は勿論、同運動促進の爲に入會員勸誘に力める事を決議した」と最近の家庭週報(八月十五日發行)に報導されてゐます。

この大會の出席者は合計九十六名、内理事、役員が三十一名で、支部代表が廿九名、東京、大阪、京都、靜岡、熊本、濱松、和歌山、鹿兒島、神戸、小倉、長野、横濱、大連、埼玉、名古屋、秋田、今治の各地方。余の卅二名は有志で、大部分東京。同大會での講演者中唯一の政治家永井柳太郎氏の講演内容は「世界の激流に直面して」と題してパンフレットとして發行されましたが、特に婦選問題についての論述はなかつたやうに見られました。

櫻蔭會に於ても、所報の如く、七月廿七日の總會で「婦選に關する研究部を設置する事」の決議案が岡山支部より提出滿場一致を以て可決されました。

至誠會に於ける活動は、具體的にはまだ示されませんが吉岡女史自らこの暑中を機ある毎に、婦選問題の爲に壇に起つたと傳へられてゐます。

全日本聯合女子靑年團は同じく常任幹事の山脇房子女史の率ゐる所ですが、何分半官的の存在故、一朝にして婦選運動にのり出す事には行きますまいが、今春

の決定の本年度方針「公共生活訓練運動」が今秋に於ては相當具體的に行はれ、公民教育運動が起されるものと見られます

婦人同志會と殆んど異體同心の感をもたれてゐる東京聯合婦人會から發行の機關誌「聯合婦人」の八月號論説欄には、「制限婦人公民權案反對」の論説がのせられました。筆者の署名はありませんが都下四十何團體の聯合體である聯合婦人會の機關紙の論説はその集合的意志に基くものと考へられもすると思はれます。

今一つ日本基督教婦人參政權協會でも矯風會機關誌「婦人新報」八月號卷頭に制限公民權案反對の久布白女史の論説をのせてその態度を明らかにすると共に九月號からは「參政權セクション」を設けて政治教育運動に進出の勢をみせてゐます

前號所報の三ケ團體共同運動は、九月に入るや第二回協議會が開かれる筈です

これらを通じて、この秋は、行方に揚げられた制限公民權案に對して如上の團體が如何なる活動を展開するかを讀者よ注目していたゞきたいものです。

一方、無産婦人團體その後はあまり目に立つ發展もなく、社會民衆婦人同盟の母子扶助法制定運動も大衆的支持を得るにはまだ日のある様子ですし、新に着手しやうとしてゐる産兒制限の實行運動もまだ研究の域を出でず恐らく開始するとしても社會民衆黨の該運動をそのまゝ受け入れてゆくのではないかと見られてゐます。

無産婦人同盟に至つては、殆ど最近表面に現はれた闘爭ぶりが示されてゐない事は遺憾です。

婦人界片々

×

婦人を兵隊に――いよ〳〵勞農ロシアで徴募。全露にわたり、赤露婦人を徴募し、二週間から一ケ月の軍事教育を施し満期後は豫備役編入、赤軍の補助機關として活躍させると。

何、驚く事はない、日本だつて女子青年訓練所もある。

×

十一の時教師に「處女」を奪はれた娘、あはれ花嫁となる夜に自殺未遂。「處女性を失つた女性は絶對に人妻たる資格なし」と女學校で教へられてから煩悶を續けてゐたのだとはいぢらしい。

尤も新郎は、女の罪ではないと敢然結婚する意志とはうれしい。

氣のどくなその婦人が、ほがらかに新生活に入れるやうに。

×

九州平戸の小學校女教師、キリスト教信者である故を以て、生徒をつれて神社參拜の折にもお辭儀をしないので、縣學

然し他方に婦人の消費組合運動が着實に根を張りつゝある事は樂しい事實です。大分新聞に賑やかに傳へられた平塚明子女史等の「我等の家」は、東京共働社成城支部で、東京で最初の婦人消費組合なのです、組合員は百餘名 出資額に對して四分八厘の配當、購入額に對しては百圓につき一圓から一圓五十錢の割戻が出來るといつてゐます。この本當の中心人物は西川幾子夫人で、組合員は成城學園都市の主婦達ですが、この企てに對しては隨分土地の小賣商の猛烈な反對運動があつたものださうです。

羽仁もと子女史の自由學園を中心とする消費組合も中々盛になりつゝあります

一方消費組合運動の宣傳に力を盡してゐる奥むめお氏は、今度移つた本所林町の家を勞働婦人セツトルメントにするやうな噂があります。

政治を否定するアナーキストの婦人達は高群逸枝氏を初め雜誌「婦人戰線」を通じて、中々勇敢に突撃してゐます。外國の方面とも連絡をとつてゐる樣でもあります。政治を否定するこの人々によつて婦選運動などが、手ひどくやつつけられてゐる事は當然です。

務部から訓導の資格を剝奪され、師範在學中の貸費四百圓の辨償を命ぜられた。

敎會側では全國敎會の應援をえて縣當局及文部省に訴へ出たが、これに對する女敎員達の意見はまだ發表されてゐない

然しこれは稍非常識に過ぎやう。尤も融通のきくやうに小學校の先生は仕立られなさすぎるけれども。

×

「美人になるには子供を持て」と、佛國一流の美容醫が發表。全世界の美容觀を一變させつゝある。日本でもまつてゐましたとばかり、さぞ歡迎、祖述されるだらう。

×

歐米美人の投票が支那に入つて學校皇后の選擧になつた。その「大學皇后」からダンサーになつた女大學生もある。

×

谷崎潤一郎夫人離婚の上、娘をつれて佐藤春夫氏と結婚、谷崎、佐藤、夫人の連名通知發表で、婦人雜誌はよろこび。勿論顏をしかめる連中も尠くない。この手合、こうした問題のさばき方のほがらかさほど毛頭分らず。

本部の日記より

七月廿六日(土)　暑い。お客様がたてつゞくので、土曜日でも中々仕事が了らない。市川さん、金子さんは四時半頃まで居殘り

同　廿八日(月)　小泉さん、土曜に早退したが今日も來ない。暑さ中りか。けふもお客様が多い。

同　廿九日(火)　汎太平洋婦人會議代表の出發を、市川、金子、兒玉の三人で送る。この前より餘程靜で反つて好感がもてたが今回は政治部代表のない事は如何にも殘念だ。この次こそは公民權位はみやげに誰か出したいといひ合ふ。

同　卅一日(木)　市川氏早朝から特別維持會員つくりに奔走。若い連中は前後して集金に出かける。今月もどうにか月を越す。聊か無理に越す形だから、八月は、とても休める所ではないと今から察しがつく。

八月　一日(金)　けふから小泉さん夏休み一人居ないと、事務所も稍休み氣分になる

同　二日(土)　午前十一時から編輯會議。元氣な出版委員連の顏が揃ふ。午後にかけては雜誌の發送で一同汗しとゞ。然しこの發送も自分たちでやる事が、大變いゝ事なのだ。

同　五日(火)　市川理事、珍らしく感冒で遂にねこむ。事務所は金子、兒玉のさし向ひ

同　六日(水)　正午の炎熱をついて、鈴木小松さんが偉大な體軀を、事務所に運び上げて下さる。維持會費を拂込み、積る話をして二時間ほど悠りされる。會員の方達の來訪は何より嬉しい。今日はもう一人珍しい吉田信子氏來訪。近く結婚の話も出る。

今日の理事會は市川氏宅でと決定、日ざしの下を、河崎、坂本、石本の諸氏、金子氏に伴はれて出かける。いくら西瓜が井戸に冷してあるといつても、この暑さの中で病人を圍むでの會議は大變だ。

同　八日(金)　午後の定例出版委員會、暑いせいか、今日は無屆缺席が多い。森委員長と金子、宮川、兒玉だけなので、金子氏宅に變更して、懇談。夕食を共にして九時頃迄雜誌の經營について話しこむ。

同　九日(土)　今日から、品川しな子さんといふ御孃さんが河崎理事の御紹介で、休み中お手傳に來て下さる事になつた。

今朝の新聞に公民權案の政府案内容が發表されたので、時事の記者その他が見える市川さんの扁桃腺炎まだなほらぬので、金子氏が一手に引うけて、それ〴〵應對する

兒玉さん、明日から休暇なので、けふは小泉さんも出て來て事務の引つぎをする。

同　十一日(月)　市川さん、全快せず、信州の夏期大學も斷つて靜養し、兒玉さん歸省し事務所は、金子、小泉の二人だけ。但し品川さんがまめやかに出て來てくれるので今日は三人掛りで會費督促の謄寫版を刷る。

會報と一しよに封じ、郵税を儉約しやうといふのである。一方會報の校正も忙しい

同　十二日(火)　けふも昨日の續きで三時迄、中々嚴格に半日で事務所をメめられない。今日から宮川靜枝氏終日勤務して『婦選』の庶務會計の貸務につく事となる。

同　十三日(水)　十日ぶりで市川さん出勤野津さんが坊やをつれてお手傳に來て、南の卓でカチ〳〵とタイプを叩く。

會報正午頃出來。市川、金子、宮川、小泉、品川さんも一しよに發送。但し折角出來上つても現金が不足で、郵便局へは明日の事とする。

川口町の爭議團員の方が鐵瓶や電氣アイロンをうつてほしいとおいて行かれる。

同　十四日(木)　朝から印刷屋のN氏をよびつけて、市川、宮川、金子の三人が『婦選』の會計整理に半日を潰す。會報發送。けふも歸りは二時半。

同　十五日(金)　小泉さん、廣告の集金に半日費したが何處も不作。不景氣風が大分吹き込んで來るのだ。

同　十六日(土)　午前の九時から理事會で坂本氏信州の講習を了へて、新しいボイルの服も淸々しげに久方ぶりの顏をみせる。とても頼もしげにやけたものだ。三理事の顏をみて金子氏限りなく喜ぶ。今迄は何のかので理事の顏が中々揃ひ難かつたからだ

宮川廣告取りに連日の効酬ひられ、けふも一つとれる。金澤から入會者をまとめて

通知して來た。支部の健かさを皆で悅ぶ。

同　十八日（月）　品川さんの顏がみえない。餘り丈夫でないらしいから、事務所のトンネル的溫氣に當つたのかと心配する。

此暑さの中を市川、坂本二氏は募金運動。宮川さんは廣告取り。金子さんは金子さんで夜具をほどいて綿を打直しにやつてゐる

其上午後六時から議會運動委員會、藤原委員長の久方ぶりの顏は坂本氏と反對に青白く小さくなつてゐるので、皆はみまひをいふ。和田邦子氏は元氣だが停留所を間ちがへて少しぶら〳〵したとの事。制限案反對運動の協議を大體した所へ、河崎理事に伴はれて熊本の山下恒子氏來訪。直ちに珍客を伴つて麻布の內相邸訪問を決行、夫妻共在宅十一時迄懇談。收獲多し。

同　十九日（火）　督促の効果あり。けふ一日の會費拂込廿圓を越す。昨日の『毎夕』に、制限案は被選擧權をも與へない旨の報導があつたので、市川、金子二氏次田地方局長の所へ談判にゆく。局長、記事を訂正し、內務省は大臣發表通りの內容だと言明する。

朝九時から特別維持會員作りに目黒迄行つて、今又こゝに來た市川氏、午後二時から再度河崎氏と玉川方面に同じ運動に出動

午後六時より金子氏宅で、出版委員會。『婦選』と會報の合同問題が議に上り、森委員長、武田務委員、安富委員よく論じ、大に氣を吐く。

兒玉さんから事務所にみすゞあめが屆き夜の食事に又丁度瓜の粕漬が屆く。一同喜び頰張る。

同　廿一日（木）　今日も三十圓以上振替で會費が屆く。但し退會者も例により五六人ある。市川、坂本氏この間からの特別維持會員作りをけふもつゞける。豫測通り暑い月に一番働く事になつた譯。

同　廿二日（金）　森出版委員長十時から出所、市川、金子の三人で大に協議の能率を上げる。小泉郁子氏原稿持參。

同　廿三日（土）　宮川氏のひとみ嬢又々發熱。頼むやうにして缺勤して貰ふ。そろ〳〵地方講演の申込が來る。もう秋の活動プランだ。

同　廿五日（月）　暑い〳〵。暑さが又後戻りである。けふ歸る筈の兒玉さん病氣で一日遲れるの電報、大した事のない事を祈る。市川、坂本氏けふも出勤、正午山下恒子氏來訪。熊本支部の件につき、金子さんと四時すぎ迄懇談。

明日は新しい勢を養つて兒玉さんが歸つては來るが月末の金作りやら、雜誌の編輯やらで、のこる五日も忙しからう。そして、九月だ。あゝ活動の秋。

考へて見れば年毎に忙しく、多くなつてゆく本部の仕事ではある、それだけ同盟の勢が伸びてゆくのだと思へば、うれしく元氣を取り直して、勵まれる次第である。

『みせしめ』を受ける記

鈴木 澄

—序—

運命は自ら拓くもので運命は人を支配するものではないと考へ、災厄は不注意が生むもので、周到さは絶對的だと考へてゐた私も、今にして運命の不可思議さ、人間の持つ周到さの頼りなさを身にしみ／＼と感じてゐる。

—發病—

隣の寢床で微かにうごめいたらしい感じではつと目覺めた母親の直覺は寢入つてゐる三つになる男兒を直ぐに抱きあげて便所へと急いだ——こぼされたら大變だ——はつと目覺めたとは云へ後は半分夢心地で自分自身フラ／＼しながらだが急いで着物をよけた瞬間、チャッと小用でない音、とプンと鼻をつく臭氣に、朦朧たる夢心地はけし飛ばされ、全身の神經が極端に緊張する。抱いてる身體が熱い、大便はまるで小川のやうに走り出て、その臭ひの異樣さ。直觀的に

「疫痢」だ！

と思ふ。私の聲は「大變よ、大變よ、起きて、生實が大變よ」と云ふ言葉を連發しながら、大便をしても半ば眠つてゐる兒を抱へて部屋に戻つた。

やりすぎて失敗する事は少いからと云つて二十グラムあまりのヒマシ油を、口を割つて匙ですつかり注ぎ込んで仕舞つた。妹には井戸の水で直ぐ水枕をつくつて貰ふ。時計は恰度午前三時。熱は三十九度三分、水枕だけでは足りないやうな氣がするので、額にも冷たい手拭をのせてやる。次に湯を沸して熱いネルで下腹部を溫める。

皆には兎に角一度眠つて貰つて、一人うと／＼眠り續けて

ゐる兒の枕元坐につて、脈をみたり檢溫したりしてみる。計るごとに完心な結果は得られない。いろんな不吉ないまはしい想像が頭を馳け廻る――半月程前に叔父の子が三人一緒に疫痢になつて、長女が一夜で死んでゐるのだ――眠つてゐる顏をみてゐる筈なのに灰に混つた粉々の骨が眼にやきつく。現にかへつては仕方がないと諦める。

五時になるのを待つて行きつけの病院に電話をかけさせといて夫と二人で病兒を連れ出した。

病院の門は既に開かれて、皆が用意して待つてゐて呉れる診察、洗腸、リンゲル氏注射。事務がどしどし運ばれてそのまゝ入院と決定する。不安な中にも何か安心した氣持になつて、家に殘して來た上の女兒の事や、家の中のことや仕かけてある勤先の仕事や、今日十時から出席せねばならぬ或る大切な會合の事が一度に氣にかゝつて來る。

妹が來て呉れたので私は一寢入りすることにして隣のベットで眠る。併しそれも束の間の事で「キヤッ」と云ふ異樣な悲鳴でとびおきた時には、既にヒキツケて苦悶をはじめてゐるのだ。馳けつけられた醫師の手で注射をされ、やつと落ちつく。始めあはてゝ舌を嚙ませぬために口の間に割り込まして喰ひ締められた人差指が紫色になつてづきんづきんと痛むこれは誰でも注意せねばならぬ事で、脫脂綿やガーゼのやうな適當なものがなければ半巾でもよいから、指などは嚙せるものでない。

――仕事を持つ惱み――

病兒の容態は重態との事で附添看護をおく事にきめた。看護婦と妹と私と六つの眼の中で兒は昏々として眠りつゞけてゐる。重態とは云へ、今さし迫つてどうと云ふ事はないらしい。手當も人手も充分だと思へる。今私一人がこゝにあつてもなくても、全體の經過には影響しないやうに考へられる。もう始つてゐるだらう會合の方が氣が氣でない。重大な決議がどんな風に取り扱はれてゐるかも心にかゝる。我慢の出來なくなつた私は醫者にすつかり賴んで出席するために、病兒の側を離れた。十二時一寸前の事だ。

會は頭數が揃つて盛會である、併し議事はまるでなつてゐない。兒の事が氣にかゝるけれど、坐をはづす事が出來ない仕方なしに中座して電話で容態をきく。激しく私を呼んで泣くさうだが、もう三十分位はよからうとの返事。暫くして歸ると云つて席にかへつてみたものゝ、この場の事も心にかゝつて立つ氣がせぬ。何分經つたのか何十分經たのか(時計は

却つて氣が引けて見なかつた）私に電話だと云ふ。夫の聲で「危篤だ」と只一言で電話が斷れた。おこつてゐるらしい病室にかへつていきなり投げられた言葉

「虚榮心のかたまり！」

今更説明しても仕方がない。只兒を愛すると同時に持つてゐる仕事への愛着を恨むだけである。留守中泣きすぎて再びヒキツケたのださうだ。醫師は電報をうつべき所にはうてと云ふ。夜に入つて再びリンゲル氏注射をして發病當日の六日は危篤のまゝで暮れて仕舞ふ。

――市立傳染病院へ――

翌七は日經過がよくなつて安心した甲斐もなく、八日の午後から盛んに泌結して血便が出はじめ、赤痢と決定、その夜又リンゲル氏注射を行ひ、手續きをとつて貰つて九日の朝、市立傳染病院の車の迎へを受けた。あの葬儀車のやうな車體の中で病兒の側にうづくまつて味ふ感傷は悲痛を超えた痴呆とでも云ふのか、何を考へる力もなく、只拭いても拭いても涙が流れて、嗚咽が喉を引き締める――。

英國大使館から半藏門、三宅坂の青葉が眼をかすめ、人通りの朝の街が走り去つて、何處を通つてどこへ來たのか、兎に角鐵筋コンクリートの大建築の玄關に下される。市立傳染病院とだけで名をきいてないのだ。車を降ると寢臺車を引いた看護婦が來て兒を移しのせ、附添の許可を得ていらつしやいと云ひ捨てゝさつさとエレベーターの方に曳き出す。兒は「ちやあちやん〳〵」と泣く。寢臺車に走り寄らうとすると二三人の人達が「いゝから早く事務所で許可を得ていらつしやい」と止める。情けなさと勝手の分らなさと、遠ざかつてゆく泣き聲とにともすればくづをれさうになる心を引き立てるやうにして附添の許可を受けにゆく。身體は丈夫かと問はれるので、ありのまゝあまり丈夫でないと答へる。弱いものや姙婦は附添人にせぬ規定だから、誰か外の人にしたらと云ふ。私より附添ふ者はないとがんばる。泣いて行つた兒の事で氣が氣でないのに、ゆつくり〳〵書類を書く看護婦の落ちつきを叩きのめしたいやうないらだゝしさで睨みつめる。

三階の病室までの階段をどう馳け上つた事か。知らぬ人達の中で兒は死ぬばかりに「ちやあちやん〳〵」と泣き叫んでゐる。十八人の患者を入れる大部屋の一隅に、新入の私は不覺にも濡れて來る瞼をしばたゝいて「おうちへかへらう」と訴へる兒をあやした。

——附添への規則——

形の通り主任醫の診察が濟み、又リンゲル氏注射だ。專門家は痛いと泣き叫ぶ程病狀は輕い譯なのだからと云ふが、悶える顏を見、苦しむ聲をきいてゐると、皆のする事が手のろくて何をぐずぐずしてゐるんだと吐鳴りたい衝動にかられる

何もかも一通り濟んでホッとして兒の側に腰かけ、兒もそれをみて安心したのか疲れて眠りかけると、病院內を案內するから來るやうにと云ふのである。誰か家のものが來てから代つて貰つてと云つたが、兒のなくのは普通の事故、氣にかける必要がないと云つて、促す。所慣れぬ氣弱さから、後髮引かれる思ひして後につく。

一、病室の出口にある昇汞水で病人の始末をしたら必ず手を洗ふ事

二、病室の前の洗面所では病人の洗面、洗濯、その他病人の事一切をし、附添人はそこの水を使はぬ事。但し洗濯のみは病人用でないタラヒを用ひてそこで出來る事

三、氷の在場所、その用具の在場所、大便器は朝起きたら一定の部屋に持つて來て、その蓋の上に病人名札をおく事、代りの便器の在場、小水瓶は回診後持つて來て便器同樣にする事、小水瓶の在場所、附添人の手荷物置場所、病室には一切附添人のものを持ち込んでならぬ事。

四、地下室に食堂と浴場があり、婦人附添は午後二時半から四時までに入浴の事、食堂には消毒衣をはをり昇汞水にて手を洗つてからはいる事、例へ水一杯のむ場合も地下室食堂まで來て、それだけの手續をとる事食事時間は三回ともはじまつてから一時間十五分以內の中に食べに來る事、時間外には食事の用意なく、一食十三錢で五日間の回數券を求めておく事

五、干し物は三階で洗ひ、地下室から、庭上に出て物干し場へゆく事

大體こんな事で、この說明を聞きながら三階から地下室まであつちこつちする間の心苦しさ。泣き聲が絕えず耳をおつかけてゐる。歸つてみたら案の條眼覺めて泣いてゐる。これから先長い間を、これだけの規則を守つて病兒を泣かせ〴〵どうみとつてゆくのかと思ふと、もう一層の事……とまで思ひ詰めて來る。一度留守にして泣かせすぎてヒキツケ、危篤に至らせた經驗があるだけに、看護婦達の云ふやうに「子供の泣くのは當り前」では濟まされない氣持ちになる。

——泣聲に追はれる一日の生活——

朝五時、窓の硝子戸がやゝ白むと附添人がそこゝで我勝に競ふやうに起きて身仕度をし、病人のベットとベットの間に置いた簡單な組み立ベットをたゝみ、一夜十錢で借りる薄い蒲團をたゝんで各々目付をつけて、附添人室に運び込む。附添人のものは手拭一本でも病室に持ち込めぬ規則があり、ベットは病人と病人の間に一晩おいて朝になれば所謂清淨であるべき附添人室に運び入れられるのだ。次に我がちに起きねばならなかつた原因である共同作業にかゝる。つまり部屋の掃除(ハキ、フク)番茶瓶の世話、食事のお盆配り、梅干配り——傳染病患者には個人的に附添人をつけぬ規定なのだが子供には止むを得ずゆるしてあると云ふので、附添人は凡べて子供の患者の附添ばかりだと云ふ事をこの際特にことはらう——而もその間に檢溫がある、病兒の顏も拭かねばならぬ大小便の用も足してやらねばならぬ、便器を規定の部屋へ屆ける、おむつも早く洗はねば干場がふさがつて干せぬ、地下室まで自分の顏を洗ひにもゆかねばならぬ、數へ立てればきりがない。一切のせねばならぬ事が殺倒してゐるので、殊に掃除食事の世話の樣な共同作業は、それが共同作業であるが故に尙更放つておけぬので、入院早々の兒、人に慣れぬ兒等々々と泣かぬのは退院間近か、極く重症で泣けぬ兒のみで、あとは一齊に「かあちやん」「おばあちやん」「おとうちやん」の泣聲の合唱である。その上若しA兒の附添がそこにゐないとしたら大人の患者は何を云ふか。「やかましい我鬼だ。叩つ殺してやるぞ」他人に云つてゐるのではあるが、この言葉をきいて我兒を泣かせて用事に出かけられるか。その上がまだある。泣かせれば檢溫表が上る、上れば食事許可の進歩がおくれる、おくれゝば退院がのびる——泣かせたくはなし、仕事をせねば部屋の人達にすまず勢ひ、子供のねてる間に一刻も早くおき、他人のねてる間に少しでも自分の事を濟ませと云ふ譯で早起競走となるのである。

病兒の食事が濟み、自分の番になつても眠つてゞも吳れねば、一時間十五分は直に經つて朝食拔きになつて仕舞ふ。うまく寢かせつければ、隣り近所に七八遍も頭を下げて、馳足で地下室に降りる。運よく消毒衣があれば幸せだが、病人に食事をさせて寢せつけ或は云ひ含めて納得させて來る時刻は誰も同じ事故、食堂は滿員で消毒衣は掛けてあるよしもない消毒衣がない所か、七人も八人もの先着者が列をつくつて消毒衣を待つてゐる姿をみると、うんざりして仕舞ふ。落ちつかぬ心を押へて待つてゐれば、子供の泣聲が耳についた蟬時雨のやうに間斷なく身をせめる。誰か知つた人が降りて來る

毎に「うちの兒は泣いてゐませんでしたか」ねてると云ふ返事を聞いてほつとするのも一瞬の事で、直ぐ泣き聲の幻覺に追ひ立てられる。漸く消毒衣をきて手を洗つて食卓につく頃は矢も楯もなく、立つたまゝで一膳の御飯を流し込むやうにして、一段々々上るのがまどろしくて、一段おきに馳け上つて三階まで上りつめ泣き聲がせねばはじめてゆつくりと歩るけるのである。これだけを朝、晝、晩三回くりかへすのだ朝なら幸ひ靜かにねて呉れゝば（或は遊んでおれば）そのまに洗濯をする。

――當局の不設備を憤る――

この洗濯場で患者の洗面その他いろ／＼の用がされるのであるが、患者の衣類は勿論、もつとも危險な排泄物のついたおむつも、何の消毒もせず、こゝで附添人がその手でジャブ／＼洗ふのである。赤痢菌、腸チプス菌は水道の栓にも蛇口にも流し場にもタラヒにもウヂョ／＼してゐる譯なのだ。而もタラヒこそ異れ、附添人の衣類もこゝで洗ふのである。手だけは室の出口の昇汞水で洗ふから安心なやうなもの丶、この昇汞水たるやと云ひたいのである。午前十時前後にとりかへて翌日の同時刻までそのまゝで、夕方から翌朝かけては雜巾を濯いだやうな色をしてゐるのだ。もつとひどい事は隔日に配藥される水藥の瓶の名札を隔日にこの汁の中に浸すのだ意味は各患者の枕許に置いた木札故消毒せねば不潔だと云ふのだらうが、昇汞水と云ふより汚汁と云ひたい水に放り込んでどれだけの價値があるか。而も患者の大小便の用を便じた手、汚物を洗つた手を、名札のブヨ／＼浮く中に浸して消毒する段になつてはお話外である患者のものを消毒せずに洗はせる件、昇汞水の件、病室に持ち込んだ寢具を附添人室へ持ち込ませながら、他の事をやかましく云ふ件、附添人の濡手拭をかける場所もなくて附添人にのみ清潔を要求する件、擧げ來れば七不思議にでも數へられる事が澤山にある。當局者に云はせればこれ程やかましく云つても附添人で傳染する者がゐるのだからと云ふのだらうが、私には云はせれば、表面の形ばかりやかましく云つた所で、かくの通り拔けてゐてはどんなに心してゐてもその點から傳染しないものではないと云ひたくなる。要はそれ程恐しい病菌なら尙ほ外面のみでなく徹底的に設備して、附添人をして遺憾なく看病の任にあたらせてほしいと思ふのである。せめて消毒衣なりと枚數を增して、附添の母を泣かせ、患者を泣かせずに濟むやうにしてほしい。

尙最後に附け加へたいのは、患者の食事なのだが、大量生產で止むを得まいけれど、これは醫師と看護婦とが注意してせめて粥食の菜と普通食の菜は別々につくらせるやうにしたいものである。四歲の快復期にある女兒が粥に豚肉のカツレツや莢隱元の胡麻和へを食べさせられるとは驚くの外ない。

私の兒は幸にして、この母の强情と勇敢さのおかげで異狀な退院をして、危險な目に遭はずに濟んだけれど、普通一般の母達は、自分自身その心配のためにやせるやうな思ひでゐながら默つてすごしてゐる事實を附記する。

——終——

入院中は泣き笑ひしながら退院しては苦笑しつゝ云つた言葉「傳染病の恐しさをいくら喧傳してもきかないので、二度と再びせぬやうに、公衆衛生を無視したみせしめにこんなひどい目に會はせるのでせう」

實話の後に

夏から秋にかけて、この一篇のやうな出來事は相當に多い事實です。勿論こうした經驗により、世の母たちは、愛兒の保健の爲に一層の努力を拂ひ、その不名譽を再びしない覺悟を持ちます。更に一步進んだ母は、この經驗を通じて、母の及ばぬ範圍への注文をも——この筆者の如く——出すでせう。

だが、私達は、その前に、もう一步立ち止つて、學びたい。それは何か？

現在市町村の住民であり、近くはその公民にもならうとしてゐる私達にとつては、もはや我子の病氣は、わが家庭の內の出來事でなく、お互が構成してゐる社會に關聯した事である事を具體的に知る必要があるのです。

まづ知る事は、正しい要求の母である。

澄子さんの赤ちやんは初め疫痢で普通病院に入院し赤痢と決定して傳染病院に移されましたが、傳染病豫防法第一條に制定せられた所謂法定傳染病は、コレラ、赤痢（疫痢を含む）腸チフス、パラチフス、痘瘡、發疹チフス、猩紅熱、ヂフテリア、流行性腦脊髓膜炎、ペストの十種ですから、疫痢でも赤痢でも同樣に傳染病豫防法によつて處置されなければならなかつたのです。

傳染病又はその疑ある患者（若くは死者）を出した場合、この例は早速病院に入院したから其筋への屆出を病院長の方からなされた事と見られますが、もし家庭で起つた時には戶主（又はそれに代るべき者）が、速かに醫師の診斷（又は檢案）を受けると共に直に其所在地の警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又は豫防委員に屆出でねばならぬ義務がある事が同法第五條に規定されて居り、これを怠つたり、僞をついたり醫師に賴んで屆出を

させなかつたりすれば、二百圓以下の罰金に處せられる筈(第三十一條)です。

入院、隔離、淸潔消毒などの事も、この例では病院からでしたから簡單にすんでゐますが、自宅など一々共筋の人々の指圖を受けて處置しなくてはなりません。

所でこの法律の第十七條をみると、

市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ、傳染病院隔離病舍、隔離所、又ハ消毒所ヲ設置スベシ

云々とあります。

現在東京市には一の傳染病院(駒込)と四ヶ所の市立病院特別病室(大久保、大塚、廣尾、本所)がありますが、澄子さんの赤ちゃんの移されたのは、その特別病室の一です。又患者の運搬患家その他の消毒などの一切は市の衛生課消毒所が直接當つてくれます。

一體この傳染病豫防事務といふものは一の國家事務で市町村に强制的に委任せられて居り、その費用は(徴兵や戸籍などと同じく)市町村が負擔する事になつてゐます。(第廿一條)

從つてどこの市町村にもかうした避病院その他傳染病救治消毒機關が市町村營で設けられてゐると同時に一方、傳染病の豫防方面の積極的施設として、淸潔方法(春秋の大掃除)種痘、ペスト、コレラ、豫防消化器系傳染病豫防(チフス等の豫防注射)消毒的淸潔方法施行(ゴミ、下水便所消毒)昆虫驅除(蠅とり)病原體保有者視察豫防智識の普及啓發(講演會、展覽會、映畫會)などの廣汎な仕事が各區衛生組合、町會、衛生會各種團體の協同施設と相俟つて全國市町村に行はれてゐるのです。

從つて、傳染病豫防費は、各市町村の衛生費(保健費)中のかなりな額を占める事になります。この衛生費が、豫算では、大抵土木敎育等に次ぐ大きな支出です。

東京市の昭和四年度保健費の豫算は一一三・一〇〇六圓で純歳出の四・八%市民の實生活に直接關係のある普通經濟事業費では土木敎育に次ぐの第三位を占めてゐます。

尤も豫防施設は大體無料ですが、救治、消毒機關の方は、これが使用の實費を市町村民から徴收してゐます。

東京市の傳染病院では普通室は所謂公費で食費一食十二錢、藥價一日二十錢を(一日約五十錢)但し、更にこれを無料にしたものが患者の三分の二もある、特別室使用者は所謂私費で、一日特等七圓、一等五圓、二等四圓、三等三圓を徴收してゐます。

三ヶ所の消毒所も同樣に、運搬料三圓とか夜具一枚消毒料二十錢、洗濯料二十錢、敷布四錢の六錢といふ風に大抵のものはやつてくれますし無料で扱ふ事もかなり多いのです

さてかくほんの瞥見ですが、やつてくると私たちの周圍に傳染病患者を發生せしめた時市(町村)民としての義務と權利が、どうやら外廓だけでもつかめたのではないでせうか。更に進んで澄子さんの母となれば如何にもむりもないと思はれる當局への要求が現在の東京市に對して無理であるか否かについては、詳しく當事者にきかなくてはなりません。

それは、單に傳染病に限らず市町村に於ける一般衛生保健事業の問題に含めて次號に市當局者を圍んでの坐談會を開きその結論として、澄子さんの叫びを本當の母親のつよい輿論に出來るやうに、研究したいと思ひます。

萬女鑑

九月（長月）

日曜　七日　十四日
　　　二十一日　二十八日
祭日　二十四日（秋季皇霊祭）

×

君待跡、吾懸居者、我屋戸乃簾令動、秋乃風吹　　額田女王

×

風にかくせ小萩が露のおきどころ　　湖降女

×

灯の下こひしい季節です。

お宅の電燈の明るさは適度かどうか、左の表でおしらべ下さい。これは照明學會調査によるもので、標準の明るさです。

◇門燈＝二〇ワット（十六燭）

◇廊下、便所、物置＝二畳一〇ワット（八燭）三畳、四畳半二〇ワット六畳三〇ワット（廿四燭）

◇玄關、寢室＝二畳二〇ワット三畳、四畳半三〇ワット六畳、八畳四〇ワット（卅二燭）十畳、十二畳六〇ワット（五十燭）

◇台所、浴室、茶の間、居間、子供室＝二畳三〇ワット、三畳、四畳半四〇ワット、六畳、八畳、六〇ワット、十畳、十二畳百ワット（八十燭）

◇書斎、客間、食堂、化粧室等＝三畳四〇ワット、四畳半、六畳六〇ワット、八畳十畳、百ワット。

同じ大きさの部屋でも使用の性質によつて燭光を用ひ分ける點に御注意を。

×

赤ちやんたちの汗もはお治りですか？　もしも『寄り』が出來て、まだ治らない時は油斷をなさらぬやうに。

何高が汗もだと、『寄り』を放つておいて、卅七八度の發熱に驚いたり、いつのまにか衰弱して骨と皮にならせたりの程度から、更に悪化して敗血症を起す事もあれば、淋巴腺炎から頸部蜂窩織炎なんかに移行させたら最後高熱を發して數日で、死ぬ事もあるのです。

どうかまめに調べて『寄り』が出來てゐたら、ピツク氏硬膏を少し大きい目に一日一回貼附して下さい、それでも口が明かない時は醫者にかける事。淋巴腺がはれたら、イヒチオルを塗布し、その上から二％の硼酸水で濕布しておく事。

×

百日咳が流行してゐます。冬でもないのになど〻怠ると大變。咳が二ツ三ツ出るだけで百日咳か普通の感冒かわからぬ中に早く豫防の意味でも注射をして貰ふ事。百日咳の注射はワクチンですが、これは極初期の間にやらないと、第二期のけいれん性咳嗽が起つてからでは殆ど無効です。

それから、この病氣の經過中に肺炎でも起すと、その死亡率は非常に高いのですが、これは普通かなり注意しますけれども一度癒つた子供が、半年か一年後に結核に犯される事が又中々多い。それも氣管支、淋巴腺を犯し順次淋巴腺結核、肋膜炎、腹膜炎といふ樣に緩かに進んで來る爲に、親が知らずに居る事が尠くないのです。

×

簾をしまふには、

1 一日太陽に干し、柔い刷毛で丹念に埃を拂落し、粉樟腦かナフタリンを紙に包んで、簾の間に入れ乍ら巻く。

2 次に油紙で堅く包み、ピツ

タリ蓋の出來る箱に入れる。

何しろ濕氣がつくと竹の色も變り、虫もつき易いから、くれ〲も濕氣を防ぐ事。又、皮の所で出來たのと、心のとでは心の方が虫がつき易い事も知つてゐなければならない。

×

この秋の流行色―といつても大百貨店などで選定する―は茶です。茶といつても煎茶、葡萄茶、小豆茶、柿茶、澁茶、金茶焦茶、栗皮茶、薄茶、綠茶、とにかく黒より明るい色で、景氣を引たてやうといふ譯ですが偶然にも紐育の各デパートで一致して推したのも茶だといふ話。

×

足の肥えて困る人には、アルコールの濕布でやる脫脂法が大變いゝですよ。

ガーゼをアルコールに浸して脚を包み、その上を少し堅い目に繃帶して卅分間ほどそのまゝにしてゐるのです。勿論氣永に續けなくては効果の上らない事は、マッサーヂ、體操と同じ事ですと。

×

涼風が立つと果物屋の店頭には逸早く秋の寶玉葡萄が並びます。一番早いのは、デラウエヤといふ極小粒で甘い種類、俗にイタリヤといはれます。關西方面では、濃黒色の果皮の厚いキャンベルス、アーリー種が馴染まれてゐます。甲州葡萄は、ずつと遲く一番おいしいのは十月頃とされてゐます。

×

梨も秋の果物のさきがけの一です。和梨中の王は『二十世紀』作る人によつて勝利だの國華だのと名はちがひますが、同種です。

次は『長十郎』これも滿月とか出長とか名づけられてゐます。二十世紀が美しい淡黄色で果皮が滑かな蠟膚であるのに對し、長十郎梨は、褐色平滑で小さい斑點があります。

洋梨は下膨れで茄子みたいな形です。

果肉が白くキメが細かで、和梨のやうに硬い石細胞がないから、たべて滓が殘らず、バタかアイスクリームのやうに舌の先でとけて了ひ、そのくせ味は中々濃厚で、香氣もずゐ分高いものです。

ペーヤは樹においた儘完熟させないで硬い内に採つて追熟させるものですから、店頭で少し固い目のを求めたら、柄をしばつて吊しておき、食べ頃になつてから食べるとよろしい。

梨は消化を助ける力がつよいので、肉食や酒食の後に好まれますし、下熱の特効があるので熱病患者にはこの卸し汁をのませると、よく渇を止めます。

×

しこえーッ、しこえーッ、東京なら朝の町々に響き渡る勢のよい鰯うりの聲、秋は鰯を初め、安價で榮養價の多い魚が豊富ですね。

鰯、頭と腸を除き、よく洗つて鹽胡椒し、メリケン粉をまぶして、フライパンにバタをとかして、ヂリ〲いためあげたのがグレイ。

×

同じ様に下ごしらへしたのを玉子の黄味をといて、メリケン粉を加へよくまぜてから玉子の白味を泡だて入れた衣をつけてバタか、ヘットであげたのが、フエタス。

どちらも橙酢か、レモン汁をかけてたべると、中々淡白で乙なお料理です。

アリス・ポール女史の印象

市川房枝

×

それは一九二二年の六月頃であつたかと思ふ。私は米國社會事業大會に出席するために首都ワシントンを訪問し、大會の宿泊係から紹介された或白人の家に泊つて、大會に出席してゐた。

尤も大會に出席するのがワシントン訪問のすべての目的ではなかつたので、毎日午後は各婦人團體、其他を訪問してあるいてゐた。

米國政廳の向側にオールドキャピタルと稱せられる古い建物がある。これは南北戰爭時代に一時政廳に使はれたといふので其名がある譯だが、其當時はそれが婦人團體――婦人黨の事務所になつてゐた

×

婦人黨といへば米國の參政權獲得運動では、戰鬪的婦選團體として米國中に鳴りひゞいたもので殊に歐洲大戰中大統領ウイルソンに强要して、婦選獲得の時期を促進するのに非常に力があつたといはれてゐるゝ團體である。

尤も一九二〇年に婦選を獲得してからは、決議をし直し此度は婦選以外、法律上に於ける男子の平等女子に不利益なる法律の改正を目的として活動を初めてゐた。

このオールドキャピタルは獲得後、會長のベルモント夫人が十萬弗を寄附して買つたもので事務所、圖書室、食堂集會室等の他三、四、五階はアパートメントになり、泊れるやうになつてゐる。

×

私がこの本部を訪問したのは、ワシントンへ行つてから二日目か三日目であつたが、恰度夕食前であつたため、すゝめられるまゝ食事に殘ることにした。

食事は私が最初にあつた會計係兼本部事務所係りともいふべきエンザ女史と同じテーブルで馳走になつたが、すんでから同會の事實上の會長アリス・ポール女史に紹介されたまだ四十には二三年位間がありさうな、若い、おとなしい一見無愛相に見える女史は、最初に

「どこにとまつてゐますか」

「ここへ來ておとまりなさい」

とおしつけるやうにいひ、私から

「ではまゐります」

との返事をさつさととつてしまつた。

×

私は遂に其の夜から四階の一室を占領して、或は食堂で或はパーラーで、アリス・ポール女史と屢々話す機會を得た大ていは婦選運動の事で

「是非婦選運動をしなさい。勞働運動は男の人に任かせておいたらいゝ。婦人の事は婦人でなければするものがない色々な事を一時にしてはいけない。」

といつた事を繰返していはれ

「もう一ケ月位ここにゐて色々みて行つたら」

とすゝめられもした。

然し私はとう〳〵二週間で再びニューヨークに引上げたのであつたがこの間の記憶は樂しい思出として今もはつきり殘つてゐる。

×

アリス・ポール女史は英國留學中にパンカースト女史の運動に參加して投獄された事さへあつた。一九一三年に歸米して直に、婦人黨を組織し、パンカースト夫人のとつた運動方法にならつて、最後の五六年間火の出るやうな運動をした、女史自身も三度も投獄された程であつた。

本號から藤田たき氏によつて譯される「自由のために牢獄へ」は女史の下にあつては活動したスチーブンス女史がアリス・ポール女史を中心とした婦人黨のこの運動の概略を記述したものである。

昨年十月日本に來て本會に三色旗を寄贈されたグリーン女史及グリーン夫人共に婦人黨の鬪士で、グリーン女史は矢張牢獄へ行つた經驗を持つてゐる「自由のために牢獄へ」の一部分はグリーン女史の筆になるものである。

アリス・ポール女史ステーブンス女史共に健在で引續き婦人黨の首領として活動してゐる。本誌の中のポール女史の寫眞は女史から私へ直接贈られたものである。



米國に於ける戰鬪的婦選運動 (Jailed for Freedom)

ドリス・スティーブンス著
藤田たき抄譯

一、戰鬪的婦選運動開拓者

スーザン・ビー・アントニー

「私は祈る、心から祈る。何か恐ろしい出來事が女性の眼をたちどころにさまして呉れるやうに。女性が女の位置の如何に恥づべくも低きものなるかをさとり、束縛の桎梏を打ちくだき、女性自身への信頼を堅くし先づ第一に女性への忠實を宣誓して呉れるやうに祈る。女は鎖につながれてゐる。しかも彼女等にはその鎖が見えないのだ。どうすればこの事實を彼女等にしらしめ、感ぜしめ、自由の爲には、そしりも、さげすみも意とせず、雄々しく叫び、且つ戰ふ勇氣と良心とを與へる事が出來るのか』一八七二年早くもスーザン・ビーアントニーは叫んでゐる。

スーザン・ビー・アントニーはアメリカの産んだ最初の戰鬪的婦選運動者であつた。今日彼女は偉大なる開拓者としてのみ世に知られ、尊敬されてゐるが故に、同性の政治的自由獲得の爲には國法破りも敢えて辭せざりし昔は忘れられがちである。しかし戰鬪的精神の跡は彼女の婦選運動の一頁毎に鮮かにしるされてゐる。國をあげての内亂、南北戰爭の渦中に狂へる如きアメリカに於いても、彼女のみは婦選運動の歩をやめやうとはしなかつた。如何なる國難と雖も、女性の獨立運動を犧牲にする程に重大ではあり得ないと云ふのが、ゆるがざる彼女の持論であつた。さはあれ國をあげての南北戰爭である。所謂國難の前には彼女の火の如き主張も力を持たぬ。一人、二人と同志も彼女を棄て始めた。つひに彼女は黑人の權利如何にも血みどろに爭ふ只中に、女性の權利を主張

する最後の一人となつてしまつた。勿論スーザン・ビー・アントニーとて熱心な奴隷解放論者ではあつた。しかし彼女は女性解放をふくまぬ解放運動に、文句なしに賛成する事は出來なかつたのだ。

南北戰爭は終つた。黑人は解放された。彼等は政治的自由をも獲得した。同時に國難の前にしばし眠れる婦選要求の聲も亦聞え始めた。解放されし黑人に投票の權利を與ふる憲法第十四條は、當然女にも適用さるべきものなりと、女等は要求した。そして眞先にこの主張を實行にうつしたのは、勿論スザーン・ビー・アントニーであつた。一八七二年の總選擧に際して、彼女は郷里ローチエスター市に於いて法を犯して一票を投じたのである。勿論たちどころに彼女は拘引された。而して型ばかりの訊問の後、權利なくして投票せるかどを以つて百弗の罰金に處せられた。



アリス・ポール女史

この事件後間もなくまたセンセーションを捲き起した劇的シーンが、スーザン・ビー・アントニーによつて展開されたアメリカ獨立百年祭のおめでたい日の事であつた。場所は由緒も深いフイラデルヒヤ獨立街、そしておごそかなる儀式の眞最中だ。獨立宣言書は聲高らかに讀まれた。折しも會場の中央通路を眞直にすゝみ來る女群がある。司會者の顏は蒼白に變じ、壇上に居ならぶ來賓も動搖した。而してこの不意の出來事に司會者は周章狼狽、その行列を差しとめる處か、却つて彼女等の差し出す文書を受領してしまつた。その文書こそは女性獨立宣言書であつたのだ。すばやく女等は退いた。女性獨立宣言書のビラを群集にまきちらしながら。かくしてスーザン・ビー・アントニーは女性の獨立を除外するアメリカ獨立宣言書の如何に無意味にして空虛なるかを思ひしらしめたのである。

スーザン・ビー・アントニーは婦選案批准を見ずして永眠

した。しかし彼女の目的、彼女の戰術、彼女の戰鬪的精神は一九一三年同じくキエーカーの背景を有するアリス・ポールがアメリカに於ける新婦選運動の總指揮官としてたつた時、十二分に再現されたのである。

二、戰鬪的婦選運動總大將
アリス・ポール

總大將、おまけに戰鬪的婦選運動總大將アリス・ポールと呼ぶ時、讀者の眼に見るもいかめしき女武者を髣髴せしめる事であらふ。しかしアリス・ポールの容貌こそは全くその反對である。靜かに、二十日鼠の如く物靜かに、弱々しいキエーカレスは言葉少なに坐つてゐる。しかも彼女の內に潛む强さを以つて對座するものゝ胸に逼る。大きな、灰色のやさしい眼もその背後には驚くべき力を藏してゐる。ふはりとした手にあまる茶色の髮は無雜作に首すぢで束ねられ、きやしやな兩手はおとなしく膝の上に重ねられてゐる。端座する彼女は力と靜けさの姿である。しかも一度うごく時そのすばしこく機敏なる事は山かける豹にも似てめまぐるしい。

私は永久に彼女との最初の會見を忘れないであらう。一九一三年七月、アドランダツクへ避暑の途上、上院に於けるデモンストレーションに參加せんが爲、ワシントンに立ち寄りアリス・ポールを訪問した。

『もう一週間こゝで御手傳ひ願へないでせうか。』ミスポールの依賴である。

『お手傳ひしたいのは山々ですが、友人と一緒に夏休を山で過す約束をしてしまつたものですから。』愚かにも私はかう答へてしまつた。

『お休ですつて:』私の顏をぢつとみつめて一言彼女は靜かに言つた。穴もあれば入りたい氣持である。大急ぎで

『大學に入學して以來、まだ休暇らしい休暇をとつた事がありませんので。』とごまかしはしたがその瞬間、私はもう決してワシントンを、而してアリス・ポールを離れる事の出來ない事を知つてゐた。私は到頭暑いワシントンで夏をおくつてしまつた。而して鄕里に歸つたのは、たゞ再び荷をまとめてアリス・ポールの許に馳せ參んずるが爲であつた。

アリス・ポールはこの上もなきよき聽き手であつた。彼女は一言も反駁の言葉をはさまず熱心にきゝ入る。相手に思ふ存分話させるのである。何度も何度も私は次の如き光景を目擊した。

『ポールさん、私は貴女方の戰鬪的なやりかたには反對です。現在の處、婦選はまだ州の問題です。先づ州議會で決すべきであつて、聯邦議會の問題ぢやないのです。私は貴女方のやり方には大反對だ。御承知の通り私は熱心な婦選論者ではあるけれど、貴女は私をあてになさらない方がいゝですよ。私は貴女方の御手傳は御めんですからね。』たてつゞけに論じつゞけた反對論者はいさゝかてれ氣味である。沈默を破るアリス・ポールの言葉はいとも不思議である。

『半時間程御ひまがありませうか』

『ないでもありませんが。』

『では何卒この机の前に坐つて切手はりのお手傳をして下さいませんか。どうしてもお晝までにこれだけの手紙を發送せねばならないんですから。』

『でも私は貴女の御手傳はいやなのです。』しかしさつさとアリス・ポールは椅子を運んで來る。議論は終りだ。而して一分後には口角泡を飛ばして論じた反對論者も、從順なる事羊の如く、無數の切手を次から次へとはりつゞける。恐らく彼女はまた忙しい事務所を訪問する。而して日ならず彼女は熱心なる同志としてアリス・ポールの許に働くのである。

アリス・ポールは我等に、男子に歎願し、あまへ、訴へ、その鼻息を覗ひつゝ婦選をめぐまるゝ日をぺん／＼として待つ事の愚さを敎へて吳れた。我々は女性自らに對する信賴を楯として眞直に立ち上るのだ。我等の自由を何ものにもまさる權利として、惠まるゝ日を待つにあらず、それを獲得する日を自ら決定するのだ。保守派の指導の許に男子に泣きつき選擧權を得んとせしサフラジストも、アリス・ポールの傘下に來り、始めて主人より投げ與へらるゝ一切の肉を待ちあぐねてあたら精力を浪費するの愚を悟つた。而して當然我等女性に屬すべくして理不盡にも手にするを禁ぜらるゝ選擧權を戰ひとらんとする我等の戰術の、如何ばかり有意義にして榮あるものなるかを發見した。この發見の日こそ大いなる喜の日である。この日我等はすでに自由のエッセンスを體驗したのである。今こそは我等は廣く女性解放運動の鬪士として資格づけられたのである。アリス・ポールはかくして幾千の女性に自由のエッセンスを與へたのである。

彼女は絕えず批難の浴びせかけらるゝ每に、『もう駄目だ』と悲鳴をあげる臆病な同志をはげまさねばならなかつた。『私等はやり過ぎてます。今日上院を傍聽しましたが二人の議員は我々の傍若無人さを憤り婦選の實現をおくらせるのは我々だと痛罵しなんとかせねばならぬと云つて居りました。』『そ

の通りですよ。』齒切れよくミスポールは答へる。『あの人等がたまらなくなるまでやるのです。そしたらきつとあの人等はなんとか致しますよ。』この沈着さの前には臆病風もふつとんでしまふ。恐怖は消える。彼女等は迷信にも近き信仰を以つてアリス・ポールに誤算はあり得ないと信頼する。かくまでに彼女の豫言は適中し、婦選運動は着々と進捗する。

アリス・ポールは世にも稀らしきまでに精神精力の集中をなし得た人である。彼女は凡ての社會問題に廣く深き關心をもつ。しかし悲慘とさへ思はるゝ決意を以つて、彼女は他のあらゆる社會問題から暫くは面をそむけた。彼女の唯一の目的に全精力を集中せんが爲には、あらゆる娯樂も、いなより深き、高き教養の機會をすら放擲して顧みない彼女であつた夜となく、晝となく、ただ一の目的貫徹の爲に思案しつゞけ畫策しつゞけ一足もとゞめず邁進するアリス・ポール。冷靜に着實に、合理的に、机にむかひ靜坐して思を凝らすアリス・ポール。この總大將のもとに働くものは最後のものまでなげ出さずには居られない。

アリス・ポールは二十代の若さを以つてこの運動の總指揮官となつたのである。しかし彼女は深く廣い教養を背景として持つてゐた。彼女はスワスモア大學、ペンスイルヴアニヤ大學、また英國の大學に於いて歴史、政治、社會學を專攻した。彼女は又工場に働き、女工生活の辛酸をも經驗した。がつひに彼女は留學中英國サフラジエットの活動に心惹かれ、勉學を擲つてサフラジエットの運動に參加し、彼女等と共に獄に投ぜられた。彼女は英國婦人が世界女性の爲の戰をたゝかへるを信じ、彼女も亦故國の女性を動かさんと急遽歸朝した。彼女は何ものにもまさる資産、即ち若さ、若さより生るゝ、さげすみも、誤解も物ともせず、思ふ處を遂行する不屈の勇氣を土産として歸朝したのだ。

婦選案通過のその日、ミス・ポールにおくられた數千の祝電のうち、ノースキヤロライナ大審院長ウオーター・クラーク氏よりおくられた祝電は、意味深いものであつた。

『婦選案批准を御祝ひ申上げる。數年前私が始めて貴女に御目にかゝつた時、私はアリス・ポールの名は必ず竹帛の上に永久に殘るであらふと豫言した。そして今やその豫言は適中した。婦選は貴女のとりし戰術によつてのみ、始めて實現の可能性があつたのだ。若し貴女がなかつたら婦選案の批准は遠い未來の事であつたらう。』(未完)



吸取紙

×月×日

――實際運動に夏休みがあるやうだつたら公民權の出し惜みも御尤もといはざるをえないだらう。

涼しい高原あたりで論じる婦選なら、腕をまくる事は愚か袖をからげる用もなからう。――いつの間に誰がかいたか、こんな事が編輯日記にかきつけてある。とにかくわれ／＼は夏休みだけは確かにしなかつただから、從つて、腕はまくる用もないほど簡單な手製の洋服を身にまとひ、紙屑と赤インキの中に埋まつてゐたが……。（K）

×月×日

今年こそと私も廣告を取りに行つた。先は民友社。昔なじみの顔々々。とてもなつかしい。大丈夫廣告ものになりさうな氣がしたが、これは決して樂な仕事ではない

丁度徳富先生の歸宅さるゝにあふ。「落實さんがやめましたなあ」といはれる。そして、「だが、もう市川さんやあなた方で立派に出來る。及ばず乍ら私もお手傳しますよ」そして又、「餘りあなたの方の落實さんにするものだから、あつちでやきもちをやいたのだよ。」

その先生のお手傳ひといふ譯でもなかつたが、友人のYさんの押し方のうまさが、中々陥落しないといふ部長さんの首をタテに動かしえた。私はたゞ幸運に惠まれたゞけ、もつべきものは友人なりと思つた次第

（かねこ）

×月×日

前號投書で問題にされた某所の廣告主任から、モリコウに火の出るやうな電話が來た。モリコウ何とか呼びつけられるのをさけやうと電話口で苦心サンタン。いつもモリコウが自身の姿をほつそりと美しくかく事を恨めしがるKが歸省中とは惜しかつた／＼、とにかく廣告は一同で敢然として棒にふる事にした。そんな事をするから、

局はいけないなんていはれるのかも知れないが、どうも人間には氣つ賦といふものも大切なものである。（O）

×月×日

信州のH温泉からドさんが歸つてゐらしたときいて、八月がいつの間にか經つてしまつたと氣づく。まつたく今年の八月は暑熱と鬪つた、而もなか／＼元氣なのがたのもしい。廣告のことでいろ／＼なお店の人達に接するのも面白い。

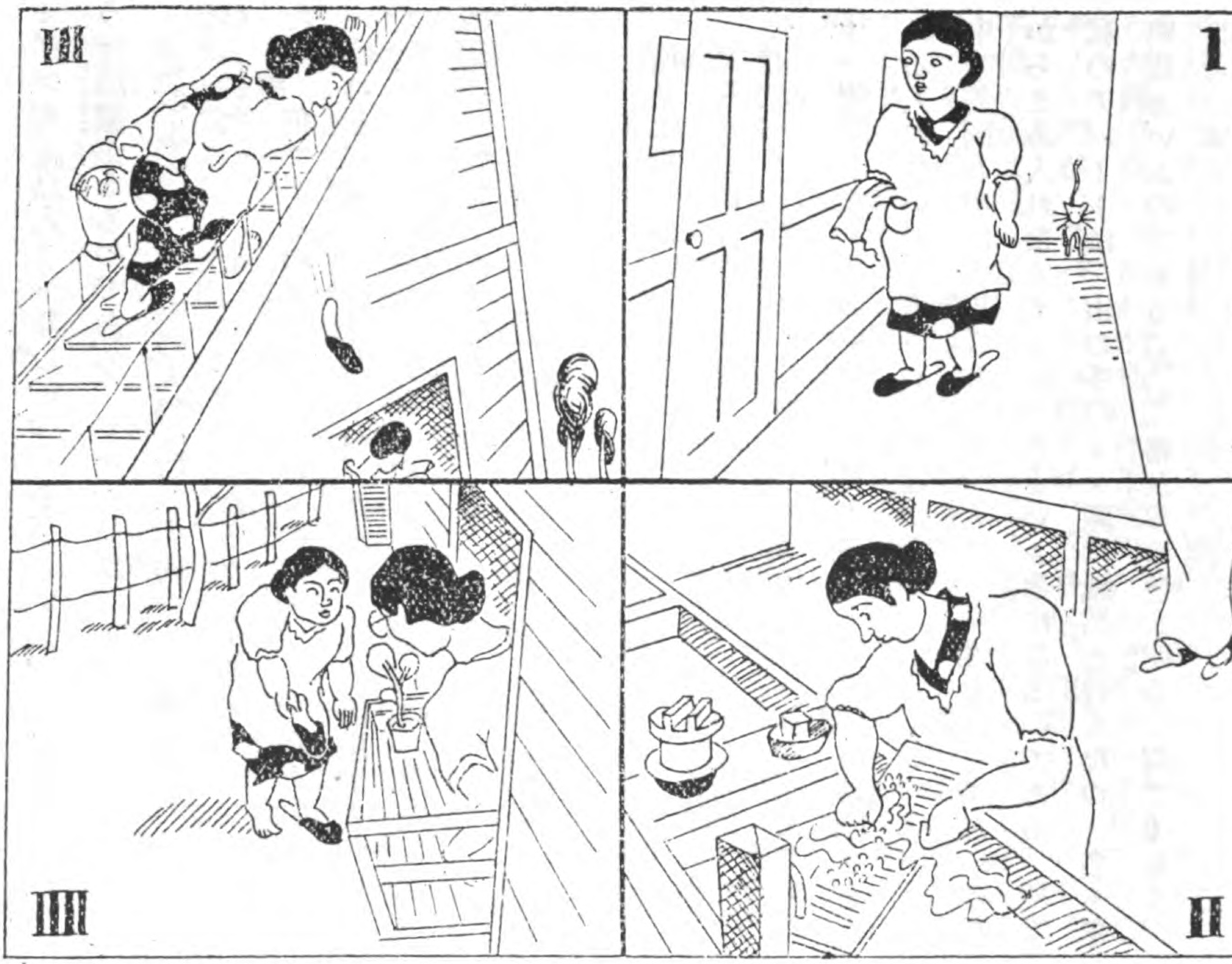
事務所は鰻の寢床、トタン屋根の灼けつく暑さときたら、まるでオヴンの中で蒸されてゐるやう。それでも、表通りをへだてゝお向ふの屋上庭園には可愛らしい藤棚もあり、要は二階から見おろすあたりに家主さん御丹精の朝顏日毎あらた。（S）

×月×日

皆さま暑中おさわりもございませんでしたか。もう、なんといつても秋！朝夕の涼しさ。燈下したしむべく、運動に油そゝぐべし。そこで、「婦選」も新秋と共に大いに内容充實、ピリゝとしたところをお目にかけようといふわけです。（R）

×月×日

三月もつゞくかな、と心配して下すつた方もあつた「婦選」もとう／＼十ケ月になりました。今が大切な離乳期。これから、まる／＼と肥らせるのは育て方。榮養も充分攝らせたいし、日光にもあてたい。そこで愛讀者の皆樣方に今秋は大いに力こぶを入れて頂いて讀者の御紹介をお願ひします。御一人が各々一名づゝの御紹介をして下されば倍になるわけ。愛讀者倍加運動に一と肌拔いで下さいませんか。（A）



漫畫小説

東京見學記

萩の下枝女史作

一、まづアパート入りの事

—大命を奉じて上京—

私も到頭アパートメントの住人になつた。といつて、私のは、此度出來た大塚の獨身婦人アパートではない。

彼處はとても嚴重に選衡するので、私だつて姉だつて（假に獨身だとして）、更に若しかすれば、私達姉妹、義兄の擧つて畏敬する、このアパート中で、最も社會的知名の士？である菱岡松枝女史だつて、當然はねられたかも知れないのである。

「菱岡女史は、今更私のやうな田舍娘が説明する迄もない、日本婦人運動の闘士として、外國迄も鳴り響いた人なのだから、獨身婦人史には缺くべからざる主要人物であり、その社會的地位に於ては、獨身アパートにすむ資格は十二分なのだが、何分にも、女史は今浪人中だから、收入欄に於て、斷然

モダン女護島入りが難しかつたらうといふ、それには次のやうな論據があるのである。女史の直話である。

『私の事務所（日本婦人聯盟）の事務の人が申込んだら、はねられたのよ、そして、知つてゐる女子大學の卒業生が入つたの、何でもその卒業生は出たてのほや／＼で何の收入もないけれど、家庭敎師で四十圓、親許から三十圓送金とかいたのですつて、事務員の方は、正直に俸給四十圓と記入したので損をしたのださうですよ。』

『中々要領がいゝですね。この頃の若い女の人にはかなはない』

義兄は頭をかいた事だつた。

尤も女史が、この獨身アパート入りをしてゐたら反つて今日問題を起してゐたかも知れない、何故ならこの話をきいた後一週間もたゝない中に、獨身アパートで男性の訪問者を入れる入れないで、大さわぎが起つたが、恐らくこのアパート中で菱岡女史ほど男性客を有つ人は、兩性を通じてないのだからきあ入れなくてよかつたといふ事になるのである。所で私のアパートは、山の手の××區に巍然と聳えたつ、名も翠明莊といふのである。だが、格別翠の色が明るい譯でもなく、北向の傾斜を利用して、半分地下室のやうな一階から、二、三と、丁度長屋を積み重ねた風に、然しとにかく鐵筋コンクリートの御厄介にだけはなつた、近代的な貸家なのである。

義兄の話では、かういふ建物は震災後方々に出來たので、今後は益々増えるだらうが、何しろ、外國のそれとは、精養軒の洋食と姉さんのライスカレー位違ふのださうである。

私はまだ精養軒の洋食をたべた事はないし、姉さんのライスカレーもこゝ二三年御馳走になる折がなかつたから、その差幾何なりやを具體的に認識するには難いが、とにかく帝劇と故郷の芝居小屋位は違ふのだらうと想像した。

このアパートには各階六個づゝの部屋があるので合計十八軒の大小といつても大きさは均一だが、世帯が詰まつてゐる譯である。

姉達夫婦は、表の玄關から入つて三番目、この建物での二階で十三號室、右隣の十二號が××新聞社員御夫婦、左隣は若い大學院の學生御夫婦、入口のとつゝきがこれも若い醫學士夫妻と赤ちやんとお子守、奥の十五號は獨身挿繪畫家のAさんに、十六號が女優のH子さん。

この他に著しい住人は、三階の無産黨員B氏と、地階の菱岡女史、菱岡女史の左隣には株屋のおぢさん夫婦と、右隣には、ダンサーの獨りすみ位で、後は、極世間並の然し大抵若

夫婦がそれ〲巢を作つてゐる。勿論まだ皆々におめにかゝつた譯でない。これが世間の長屋町なら、小さい子供でうじや〱だが、アパートの廊下は、感心に、相當に片づいて、子供の蔭は見えない。それも道理、まだ子供のない夫婦といつても、ほや〱の樣な連中が多いので、子供が生れると、こゝから一軒並の貸家に昇格して出て行くのが、このアパート初つて以來の慣例ださうである。

だから、姉夫婦も、義兄の學校友達の安達さんが、親子三人になつて郊外に引越した後に入つたのであり、何れは半年も立たぬ中に、この人々も、昇格する運命におかれてゐるのである。

即ち、姉は只今姙娠中である。この前、初產を北海道で學生上りの若奥さまの不注意から流產したので、此度は、どうしても無事に、母親にならなければ、父親たるものが承知をしないとあつて、大命はかく申す私に下つたのである。

女學校を出て一年、父なく、母老いた鄕里の家に、何かと家事を見てゐた廿歲の私は、かくて、東京に出で、このアパートの、六疊と四疊半と三疊しかない家に、家族の一員として迎へられたのである。

「可津ちやん、あんた、田舍のつもりで大きな聲だしちやこゝじや上下につゝぬけよ。」

私が姉にあふなり、いきなりいはれたのはこの言葉である

二、第一日の出來事
—落ちてゆくスリッパ—

アパート住居は、何事にもひろやかに打ち展げて暮す田舍人には、中々なれにくいものである。來た日に、私は、早朝に着いて朝餉が濟み、一ね入りねた後で、汗になつた肌着を洗はうと思つて、姉から敎はつた井戸端ではない水道場に聲どころか足音をも忍んで行つた。本來なら各戸の臺所に水道はひいてあるべきものだが、家主が儉約して、各階の一ヶ所に、戸數だけの水道口がとりつけてあり、そこのコンクリートの流しで、臺所の洗ひ物もすれば、洗濯もするといふ仕掛故鄕のお母さんに見せたら、斷然きたないと憤慨するだらう荒神樣を祭つたり、井戸神樣を拜む生活は、こゝでは斷片さへも見當る譯でない。

所で、とにかく私は流しの口を栓で止めて水をだして、洗濯をし了へた。さて干場である。屋上に鐵梯子を上れと、姉が敎へた通りに、私は、洗ひ物を手にして、こわ〲三階へ向けて、建物の外側にとりつけた鐵梯子をソロ〱と上り初

めた。だが、地上は二丈餘りの下に、鐵板の間から見える。目がまはらない譯には行かない。あつといふ間に逆に私は足をすべらした。但し落ちたのは、私ではなくて、スリッパである。

女學校を出た年、關西へ修學旅行に行つて、大阪の宿屋でゴムのスリッパをはき乍ら階段を上つた時に、誰も完全に上れなかつた事がある。

光子さんといふ友達が『當り前さ。スリッパーだもの、スリッとぬけて、パアと落ちる。』といつたので安心して、皆がスリッパアをやつて、宿屋の番頭に叱られた。何しろ、スリッパーの雨が、玄關の帳場に降つた譯であつたから。

所でこれは、中々かはいゝフエルトの眞紅であつたけれど何しろアッといふ間に綠色の鐵板の間から、時ならぬ紅薔薇のつぶての様に、地上を指して落ちて行つた。

行方はまだはるかである。私は、片足のスリッパを顧みて宙に迷つた。稍あつて、勇氣を鼓して私の歩き出したのは、下である。やがて私は、梯子の起點の地上に歩をふみしめた

所が——又私の言葉ぐせが出るが——あはれわがスリッパは、間近にはあらで彼方二間の、丁度姉の部屋の直下の窓先に、緣日物らしい草花の但し半分枯れかけた鉢の間にはさまつてゐる。困つた。まゝよ、窓が明け展げてはないらしいのに勢を得て、私ははだしで取りに走つた。

所が、そこで、皆は明けてなかつた窓が開いたのだ。私がスリッパを拾ひ上げてまだ足に持つてゆかない中に、一人の人にみつけられたのだ。

これが若い男ででもあつたら、私の東京生活が大に華やかに展開したらうに、事實は、これが、婦人闘士菱岡女史の出現であつたのである。

だが私は、これが女史だとは勿論東京についてまだ十時間にもならぬ身の夢しる由はなく、たゞ五尺二寸豊かの偉軀をアッパッパに包んで、度の強い近眼鏡をかけた中年の一婦人の出現に、聊か氣をのまれただけだつた。あはてゝ私は頭を下げた。

さてこれが私のアパート生活第一頁である。（續く）

・・・編輯後記・・・

——秋になりましたね。皆さん御さわりなく夏をお越しになつたのでせうか。私共もおかげさまで、一日も休まずに九月號を編輯する事が出來ました。

八月號がとても好評でしたので勢をえて、本號も素破らしい飛躍をと豫定してゐたのですが都合で其の半は十月に割愛しました。でも本號での面目一新の點も大に認めて頂けると信じます。

——永らくおまたせした米國の婦選運動史藤田女史によつて又いき〳〵と展開される事をお喜び下さい。

小泉郁子女史の健筆が、又本號にも寄せられました。

米山久子女史は、同盟金澤支部の幹部で筆に、殊に北陸に於ける闘士として斷然活躍してゐる方です。地方のかくれたる同志の紹介として最近の講演原稿をいたゞいてのせました。

——市川氏の論文は當分の間、毎號卷頭を飾る豫定です。

新しいものでは、漫畫小説、實話。何れも本誌獨特の權威ある讀物として、他に追隨を許さぬ組ですが、如何でせうか。

その他相變らぬ六號記事の滿載、何卒御み落しなく御らん下さい。

——本誌も後一號で滿一周年を迎へる筈です。記念號としての計畫を今から練つて居りますし先にいつたやうに、十月號に發表の新計畫もあります。約一年にしてやうやく稍理想の一端が實現出來るかに覺え、編輯部員一同勇み立つて、秋冷の候の活動を期してゐます。

毎回申上げる誌友大會も十月には開きたい考へです。一人より一人へ——近づく我等の目的の日に備ふる爲に、早く、早く早く、本誌をご利用下さいませ

誌友五人を確實に御紹介下さいました方には、一ヶ年分の本誌を無代進呈いたします。ぜひお友達を御誘ひ下さいませ。

——本誌宣傳用の美しいカードとポスターが、森女史の手で近日出來いたします。これを皆さま方の手で全國に掲げたく存じます。御申込下されば、出來上り次第お送りいたします。

では又來月、もつと空がすみましたら、又次の號で御めにかゝりませう。(都の空を風あまたわたる日に編輯室にて)

本誌定價

▽一部 金二十錢(郵税五厘)
▽半年分 金一圓二十錢(税共)
▽一年分 金二圓四十錢(税共)

誌代は前金で拂込は振替が御便利です、切手代用は一割増に願ひます

廣告料

廣告御希望の方は御一報次第、料金その他御通知いたします。

昭和五年八月二十九日印刷納本
昭和五年九月一日發行

編輯、印刷兼發行人 市川房枝

東京市芝區南佐久間町一ノ一
印刷所 研文社印刷所

東京市麴町區麴町四ノ五
發行所 婦選獲得同盟
電話九段一七一九番
振替東京七〇三八三番


ヘちまの水から發明した化粧水
ヘチマコロン
純國産
ヘチマコロン
ハリウッド通信
松井翠聲
パラマウントのスター
メリー・ブライアンに
お肌を美しくする事に於て
は世界に類のない化粧水
ヘチマコロンを贈ります
親日家ブライアンの
瞳は美しく輝きます
「どうもありがたう
ミスター・ニッポ
ンに宜しく」
ヘチマコロンは
日やけ、アセモ止めに
お化粧下に、白粉のとき水に
蒸しタオルに、お髭剃のあとに
爽やかな化粧水で御座います

内科
外科
産科
婦人科

院長 醫學博士 伊東常太郎
醫學博士 江守彌次郎
醫學士 末吉彌吉

池袋病院

省線 東京池袋驛東口東（改正道路）
市電 大塚辻町下車池袋驛行乗合自動車病院前下車

電話大塚 一〇五三番
一六七七番

東京 理化學研究所長 理學博士 鈴木梅太郎先生
赤堀割烹女學校長 赤堀旺宏先生
兩氏御推奬品

信濃名産

滋養美味

鯉こく罐詰

全國著名食料品店にて販賣します
料理の栞御申込の御方に差上ます

長野縣南佐久郡櫻井村
信濃養鯉加工株式會社製造

加工品目
鯉こく
鯉すつぽん煮
鯉とまと煮
鯉甘露煮
鯉燻製
鯉味噌
其他各種

腸疾患……に

殺菌性整腸劑

デプロミン

錠劑
粉末

總ての胃腸疾患に……

上野 銀座 松坂屋藥品部各藥局ニ有

東京四谷大番町
發賣元 保田製藥所

職業的
御婦人
に最適

簡易
實用
經濟

眞に三拍子
揃つた衛生的
完全無缺の

ラスト月經帶

産婦人科性病科助産家方の實驗推奬

これ迄總ての月經帶が昔と違ひまして、活動性に富む現代の婦人には、不適當の品許りでありました。之等の缺點を遺憾に思ひまして多年考究と實驗とを重ねて出來上りました『申分のない』ラスト月經帶であります

――ラスト月經帶の他に比類のない特長――

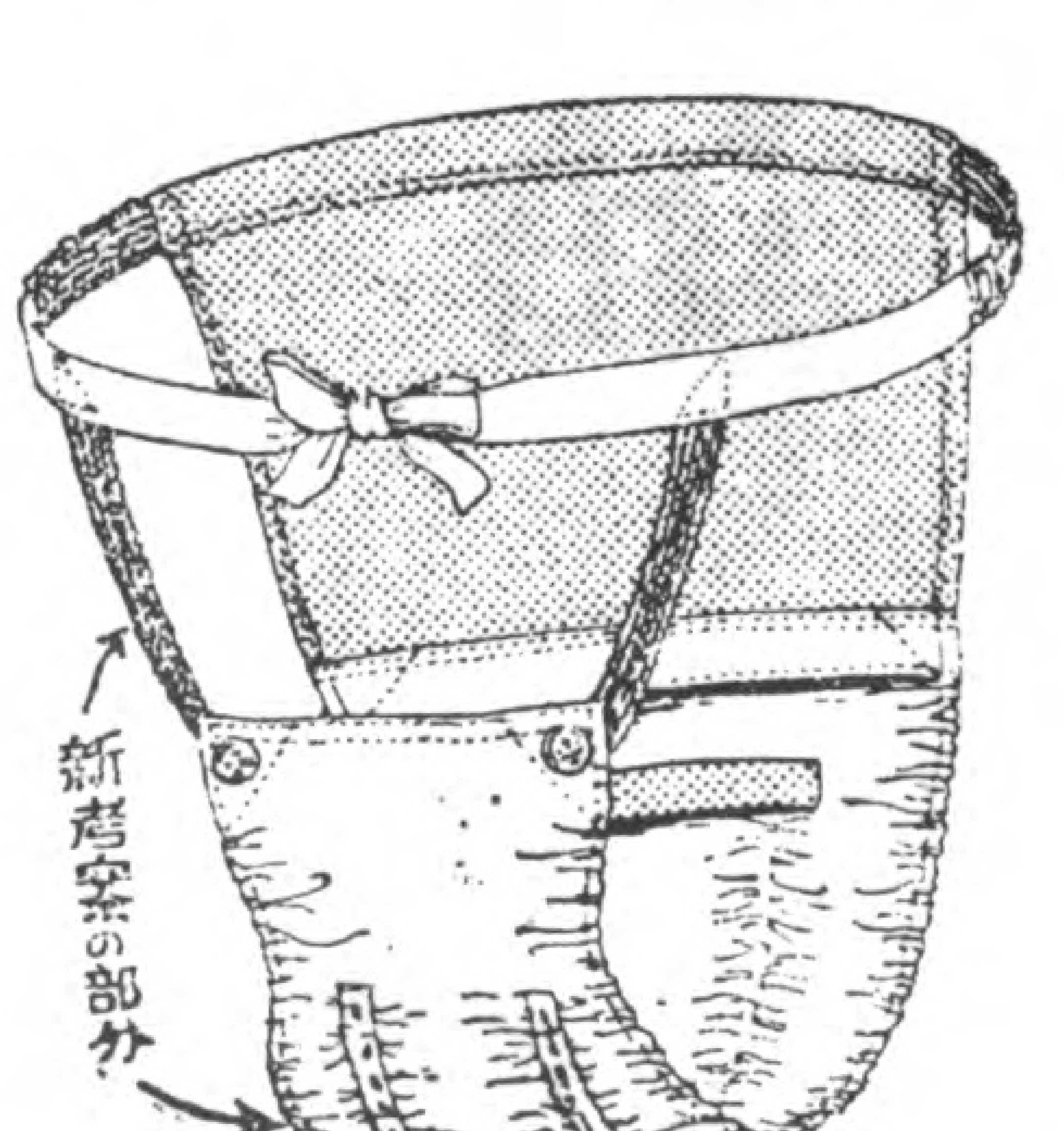
（一）生地に化學的加工が施してありますから、冬は保温的で肌ざわりが良く、夏は冷やかで在來のゴム製品の様に耐へ難い苦痛がなくあく迄も衛生的であります。

（二）主要部分は幅が廣く、局部から臀部にかけて漸次廣がり完全な防水性になつてゐますから、長時間起居、活動、旅行に對しどんな多量性の方でもそうの心配がありません。

（三）局部に當る生地の前後兩端を袋狀となし、綿止を設けてあるため脱脂綿は移動せず、汚れた綿の交替などにも絶對にご安心であります

（四）生地が良くて輕く、構造が單純でありますから、着け脱しが簡單で頗る便利です。そして今迄にない丈夫で、寒暑洗濯等によく耐へ少なくとも在來の三四倍は持ちます。

（五）大量製産でお値段も之迄の三分の一位で、眞に奉仕的實費提供であります。どうぞ直にお試めしの上ご愛用を願ひます。



定價

普通形	三個函入	壹圓也
	一個は	三十五錢
大形	三個函入	壹圓三十錢
	一個は	四十五錢

東京市日本橋區本石町四丁目

ラストメリー
ラスト哺乳器 本舗 **いわしや** 松本天次郎

電話日本橋一七一九番三四九八番
振替東京六五〇六四番

◇全國有名藥店、主婦の友社代理部にあり。

Vol. IV, No. VIII "FUSEN" September. 1930
Published monthly by The Woman's Suffrage League of Japan.

昭和四年十二月廿八日 第三種郵便物認可
昭和五年九月一日發行



發行所 東京 麹町、四ノ五 婦選獲得同盟